

科目名 (英)	心理学 ( Psychology )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	江崎 浩明
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	
教員の略歴	公認心理士、産業カウンセラー、大学院にて心理学を専攻。その後、産業・学校・医療領域にて約20年間非常勤として勤務。						
授業の 学習内容	心理学の成り立ちや基礎的な心理学用語・概念を学ぶことで、多くの人が持つ誤解や偏見から脱し、人が持つ考え方や捉え方の特徴について学びます。身体にダメージを受ければ必ず心にも何らかの不調を来たします。柔道整復士は身体の特長ですが、心身不可分(心と体は密接に関係している)ので、分けて考える事はできない)の為、心についても理解を深め、心身両面をサポートできる人材になることが求められます。また、自分自身を支える一つの柱として心理学的な視点を養います。						
到達目標	心理学の成り立ちや哲学との違いについて理解する。 外界からの刺激をいかにして取り込み処理しているかを理解する。 記憶の仕組みや忘却のメカニズムについて学び、定着のよい方法を理解する。 なぜそのように考え、行動をとるのかについて学び、望ましくない行動を変容させる方法を理解する。 感情の種類や特徴を学び、振り回されない方法を理解する。 やる気の構造を学び、持続させたり取り戻すための環境構築について理解する。						
評価方法と基準	1. 定期試験100%(選択式と記述式)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	講義の進め方、教科書の使い方、ノートのとり方、評価方法を理解する。心理学を学ぶ目的を理解する。	心理学に対するイメージを考えておく
2	/	講義	基礎心理学と応用心理学の違い、心理学的知識の活用に対する功罪について説明できる。	心理学が誤用・悪用されている例を考えておく ○○心理学の○○に入りそうな言葉を考えておく
3	/	講義	心理学史 I 哲学からの独立、その後の自然科学からの影響を説明できる。	哲学に対するイメージを考えておく 科学と非科学の違いについて考えておく
4	/	講義	心理学史 II ゲシュタルト心理学、行動主義、精神分析学を経た近年の心理学への流れを説明できる。	哲学から独立した流れを説明できるようにしておく 心理学が拡大した経緯を説明できるようにする
5	/	講義	感覚・知覚・認知 I 五感の働き、センサーの特徴、知覚的体制化、運動知覚について説明できる。	通学中に五感をフル活用して何を感じたかを考えておく
6	/	講義	感覚・知覚・認知 II 痛みセンサーの種類と反応、痛みの評価法について説明できる。	人生史上最も痛かった経験を考えておく
7	/	講義	記憶 I 記憶の過程、時間的変遷、種類と分類について説明できる。	自分の得意な記憶と苦手な記憶、考えなくても半自動的に動ける体の記憶について考えておく
8	/	講義	記憶 II 記憶の定着と忘却(エビングハウスの忘却曲線、逆行抑制、記憶術)について説明できる。	これまでの勉強や学習の方法について考えておく
9	/	講義	学習 I 経験による思考や行動の変化、古典的条件づけ、オペラント条件付けについて説明できる。	幼少期からの他者とは異なる習慣、どうせやっても自分には無理と思っていることについて考えておく
10	/	講義	学習 II 直接学習と観察学習、プラトー(高原現象)、練習効果曲線、学習の転移について説明できる。	自分が得意な運動や趣味、伸び悩んだことについて考えておく
11	/	講義	動機づけ やる気の持続、自己効力感・学習性無力感、内発的・外発的動機づけについて説明できる。	これまでに挫折したことや、「自分にはどうせ○○はできない」と思っている事を考えておく
12	/	講義	感情 喜怒哀楽の特徴や不安の種類(状態・特性、取り込まれ・見捨てられ)と対処について説明できる。	最近嬉しかった・怒った・不安に思ったこと・仲間はずれにされるのでは、と思ったことについて考えておく
13	/	講義	これまでに学んだ心理用語・概念について説明できる。	それぞれの単元の理解度をチェック
14	/	講義	試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習			学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。	
【使用教科書・教材・参考書】				
医療の行動科学 I 医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー 山田富美雄 編集 北大路書房				

科目名 (英)	情報処理 ( )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	阿部 かざみ
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	15時間 (2単位)	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	Word・Excel・PowerPointの操作方法を専門学校・PCスクール・企業研修・就職支援などで指導						
授業の学習内容	現代では業種・職種を問わず社会生活に必須となっているパソコンのスキルが求められています。シェアが90%を超えているWindows系のOfficeを実技を中心として学び、職場での活用技術を身に付ける。 業務報告書の作成、データ集計・集計結果の分析、学会に向けての資料作りなど。 視能訓練士として必要なパソコンスキルを学ぶ。						
到達目標	Word・Excel・PowerPointの基本操作、効率の良い使用方法、また、実務例に基づいたレポート・資料などの作成ができるレベルを目指す						
評価方法と基準	実技試験70% 出席点15% 平常点15%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	効率のよい入力方法を覚える	<b>準備学習</b> Windowsの基本操作(日本語入力・マウス操作・キーボード操作)やファイル・フォルダーの扱い(作成・移動・コピーなど)ができる方が望ましい  <b>学習課題</b> 積み重ね授業になるので、授業終了後は復習をし、確実に次の時間に活かせることが望ましい
2		実習	Wordの基本編集機能を操作できる	
3		実習	ビジネス文書の基本ルールを覚える	
4		実習	表を作成・編集できる	
5		実習	グラフィックスを使用できる	
6		実習	ワークシートの効率的な編集ができる	
7		実習	四則演算ができる	
8		実習	簡単な関数や、参照方法ができる	
9		実習	表を編集し、印刷設定ができる	
10		実習	グラフを作成できる	
11		実習	スライドの基本操作やテーマを設定できる	
12		実習	スライド内で表やグラフを活用できる	
13		実習	Web上の画像やグラフィックスを扱える	
14		実習	アニメーション効果をかけられる	
15		実習	試験解説	
準備学習 時間外学習			パソコン操作に慣れるためにも時間外にも報告書・課題などパソコンを使用して作成してほしい	
【使用教科書・教材・参考書】				
滋慶出版社 Word2016・Excel2016・PowerPoint2016				

科目名 (英)	理科学 ( Science )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	澤田 悦子
学科・コース	柔道整復科 午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	1984年愛知県立東山工業高等学校(理科(物理、化学、生物、地学))1993年～2004年東北文化学園専門学校(化学、薬理学、基礎医学実習、機械工学)2006年～東北福祉大学通信教育部(医学一般)を担当						
授業の学習内容	①高校で、化学・生物などを履修していない学生が多いので、生理学などを学ぶ上で特に必要な基礎知識を重点的に学ぶ。人体を構成する主な原子・分子について理解する。化学変化、化学反応式、酸・塩基、pH、酸化と還元について理解する。水溶液中の物質の濃度の表わし方(モル濃度など)を学ぶ。有機化合物や代謝について理解を深める。ホメオスタシスを、分子レベルから考える。浸透圧(浸透圧濃度)の単位について理解する。 ②生理学の教科書のP1～P12を中心に、生理学の導入部を学ぶ。理科学で学んだことを、その後の生理学で学ぶことと関連付けながら学ぶ。 ③高校で学ぶ範囲が広い中の一部を短期間に学ぶので、理解を深めるための補足のプリントを配布する。練習問題を配布し、自ら理解度を確認できるようにする。						
到達目標	①医療従事者として、また社会人として必要な理系分野の教養を学ぶ。 ②講義を聞いて、要点をまとめることができるようになる。 ③分からないこと、疑問に思うことを、自ら解決する姿勢を身に着ける。						
評価方法及び基準	1)定期試験70%…重要語句の理解の確認 2)練習問題20%…主にモル濃度、浸透圧濃度などの計算問題 3)授業中の取り組み10%…質疑応答						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義	生理学、理科学とは、人体を構成する要素、原子と周期表を学ぶ	復習を行う
2	／	講義	代謝…生体内の化学変化、アルコール代謝、飲酒や喫煙の生理作用を学ぶ	復習プリント
3	／	講義	人体の化学的構成、人体を構成する主要元素、細胞内液と細胞外液の組成を学ぶ	復習を行う
4	／	講義	化学の基礎…分子、化学結合、イオンを学ぶ	復習を行う
5	／	講義	化学の基礎…酸・塩基・塩、酸・塩基平衡を学ぶ	無機化学復習プリント
6	／	講義	化学の基礎…酸化と還元を学ぶ	復習を行う
7	／	講義	単位、気体の圧力、混合気体の圧力、分圧を学ぶ	復習を行う
8	／	講義	水溶液・電解質…濃度(モル濃度)、溶解度、pHを学ぶ	復習プリント
9	／	講義	浸透圧と浸透圧濃度(Osm/l)、生理的溶液を学ぶ	復習プリント
10	／	講義	有機化合物の性質、官能基を学ぶ	復習を行う
11	／	講義	生体を構成する有機化合物(1)三大栄養素、糖質、脂質、異性体を学ぶ	復習を行う
12	／	講義	生体を構成する有機化合物(2)タンパク質、アミノ酸を学ぶ	有機化学復習プリント
13	／	講義	生体を構成する有機化合物(3)酵素、核酸、ATPを学ぶ	復習を行う
14	／	試験	筆記試験	
15	／	講義	試験の解説	
準備学習 時間外学習			特に必要な一部を講義するので、予習はしなくて良い。復習によって、理解できたかできなかったかを明確にする。練習問題のプリントで復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】				
生理学/第3版/根来 英雄/南江堂				

科目名 (英)	保健体育 ( )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	吉田 晴彦
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 4 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	平成15年3月 中学・高等学校教諭一種免許(保健体育)取得平成22年1月 JATI認定トレーニング指導者資格取得平成25年3月 柔道整復師免許取得平成26年4月 スポーツ&コンディショニング「SteadyFive」みやぎのほら接骨院開業						
授業の 学習内容	バレーボール・バスケットボールなどのゲームを通し、体力の向上、健康の維持増進を図るとともに身体構造や動作を理解する。						
到達目標	人間の運動にかかわる身体の機能と構造について説明できる。 自分自身の身体動作のコントロールを身に付ける事ができる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記100%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	/	実技	バレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	次授業の予習	今授業の確認
2	/	実技	バレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	次授業の予習	今授業の確認
3	/	実技	バレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	次授業の予習	今授業の確認
4	/	実技	バレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	次授業の予習	今授業の確認
5	/	実技	バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	次授業の予習	今授業の確認
6	/	実技	バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	次授業の予習	今授業の確認
7	/	実技	バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	次授業の予習	今授業の確認
8	/	講義	機能解剖(上肢の骨)を理解する	次授業の予習	今授業の確認
9	/	講義	機能解剖(下肢の筋)を理解する	次授業の予習	今授業の確認
10	/	講義	機能解剖(下肢の骨)を理解する	次授業の予習	今授業の確認
11	/	講義	機能解剖(下肢の筋)を理解する	次授業の予習	今授業の確認
12	/	講義	機能解剖(体幹部の骨)を理解する	次授業の予習	今授業の確認
13	/	講義	機能解剖(体幹部の筋)を理解する	次授業の予習	今授業の確認
14	/		筆記試験		
15	/		解説		
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名 (英)	保健体育 ( )	必修 選択	選択	年次	1年次	担当教員	吉田 晴彦
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 ( 4 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	平成15年3月 中学・高等学校教諭一種免許(保健体育)取得平成22年1月 JATI認定トレーニング指導者資格取得平成25年3月 柔道整復師免許取得平成26年4月 スポーツ&コンディショニング「SteadyFive」みやぎのほら接骨院開業						
授業の 学習内容	バスケットボール・フライングディスクなどのゲームやウェイトトレーニングを通し、体力の向上、健康の維持増進を図るとともに身体構造や動作を理解する。						
到達目標	人間の運動にかかわる身体の機能と構造について説明できる。 自分自身の身体動作のコントロールを身に付ける事ができる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る。	次授業の予習・今授業の確認
2	/	実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る。	次授業の予習・今授業の確認
3	/	実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る。	次授業の予習・今授業の確認
4	/	実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る。	次授業の予習・今授業の確認
5	/	実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る。	次授業の予習・今授業の確認
6	/	実技	トレーニング実技 (スクワット・デッドリフト・ベンチプレス)	次授業の予習・今授業の確認
7	/	実技	トレーニング実技 (スクワット・デッドリフト・ベンチプレス)	次授業の予習・今授業の確認
8	/	講義	トレーニング理論(プログラム変数)を理解する	次授業の予習・今授業の確認
9	/	講義	トレーニング理論(筋力向上)を理解する	次授業の予習・今授業の確認
10	/	講義	トレーニング理論(筋パワー)を理解する	次授業の予習・今授業の確認
11	/	講義	トレーニング理論(栄養及び減量)を理解する	次授業の予習・今授業の確認
12	/	講義	トレーニング理論(栄養及び増量)を理解する	次授業の予習・今授業の確認
13	/	講義	トレーニング理論(プログラミング)を理解する	次授業の予習・今授業の確認
14	/		筆記試験	
15	/		解説	

科目名 (英)	英語 ( English )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	ILC
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	曜日・時限
教員の略歴							
授業の学習内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	英語で挨拶したり、自分の言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解するなど、日常の場面で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期試験100点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	クラスオリエンテーションL1 挨拶が出来るようになる	オンラインプラクティス L 1
2		講義	L3 個人の情報を聞きだすことが出来るようになる もう一度言ってもらえるようお願い出来る	オンラインプラクティス L3
3		講義	L6 好き嫌いを表現出来るようになる 相手に質問で返すことができるようになる	オンラインプラクティス L6
4		講義	L8 相手に意見を聞くことが出来るようになる 相手に意見を伝えることができるようになる 誘いに返答することが出来るようになる	オンラインプラクティス L8
5		講義	L11 相手について褒めることが出来るようになる 褒め言葉に返答出来るようになる	オンラインプラクティス L11
6		講義	L7 L13 時間を尋ねることが出来るようになる 時間を伝えることが出来るようになる 相手の日課について質問が出来るようになる	オンラインプラクティス L7 L13
7		講義	L14 継続して質問することが出来るようになる	オンラインプラクティス L14
8		講義	L19 L20 ある場所の位置について質問出来るようになるある場所の 位置を説明出来るようになる道案内が出来る、道順を尋ねることが 出来るようになる	オンラインプラクティス L19 L20
9		講義	L21 L23 ある行動の頻度について尋ねることが出来るようになるある 行動の頻度を説明出来るようになる	オンラインプラクティス L21 L23
10		講義	L28 ある食べ物について質問出来るようになるある食べ物を説明出 来るようになる	オンラインプラクティス L28
11		講義	L29 L30 過去の出来事について話すことが出来るようになる過去の 出来事について尋ねることが出来るようになる	オンラインプラクティス L29 L30
12		講義	L32 予定について質問出来るようになる 予定について説明出来るようになる	オンラインプラクティス L32
13		講義	定期試験に向けて復習する	
14		講義	定期試験	
15		講義	振り返り	
準備学習 時間外学習			教科書を熟読する。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Speak Now 1				

科目名 (英)	国語  ( )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	高橋 和巳
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース						
教員の略歴	1983年 中学・高等学校教諭一種免許(国語)取得、その後宮城県公立高校勤務 2018年より本校非常勤講師(国語)						
授業の 学習内容	社会人として必要な文章読解力や表現力を学習する。						
到達目標	社会人として必要な文章読解力や表現力を説明できるようになる。						
評価方法と基準	筆記100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	/	講義	オリエンテーション: 具体的学習内容の確認、作文を学ぶ		復習を行う
2	/	講義	作文返却、漢字検定資料を利用して語彙力養成を学ぶ		復習を行う
3	/	講義	文章表現向上のために①整った文を書く②表記を意図する③係り受けを正しく、漢検3級模擬試験を学ぶ		復習を行う
4	/	講義	漢検3級模擬試験答案返却と解説①整った文を書く②係り受けを正しく③文末表現の統一を学ぶ		復習を行う
5	/	講義	①整った文を書く ④敬語を学ぶ		復習を行う
6	/	講義	④敬語練習問題、解答、解説 ⑤話し言葉と書き言葉を学ぶ		復習を行う
7	/	講義	⑤練習問題、解答、解説 ⑥一文を短く、効率的な読点、曖昧な文を避ける		復習を行う
8	/	講義	⑥練習問題、解答、解説 ⑦接続表現		復習を行う
9	/	講義	⑦練習問題、解答、解説 ①～⑦をふまえての作文Ⅱ(800字横書き)		復習を行う
10	/	講義	作文返却、ディリーノートの記入について、プロフィール作成		復習を行う
11	/	講義	プロフィール作成、履歴書(含鑑)		復習を行う
12	/	講義	プロフィール作成、履歴書(含鑑)		復習を行う
13	/	講義	手紙の基本、実習礼状について		復習を行う
14	/		筆記試験		
15	/		試験解説		
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名 (英)	解剖学	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	佐々木 詩織
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 (1)	開講区分	
教員の略歴	平成31年東北大学卒業。令和2年4月より柔道整復科の解剖学授業を担当する。						
授業の 学習内容	人体構造を知るために必要な専門用語を身につけさせた上で骨格系の構造について学習し、その内容を元に人体の総合的な構造を認識・理解させる。						
到達目標	柔道整復師に必要となる人体の構造について理解する。						
評価方法と基準	筆記試験と平常点(授業態度)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	解剖学の歴史・用語を理解する	授業用ワークシートの予習・前授業の復習
2	/	講義	「ヒトの細胞・DNA」を理解する	授業用ワークシートの予習・前授業の復習
3	/	講義	「組織(上皮組織、支持組織)」を理解する	授業用ワークシートの予習・前授業の復習
4	/	講義	「組織(筋組織、神経組織)」を理解する	授業用ワークシートの予習・前授業の復習
5	/	講義	「ヒトの発生」について理解する	授業用ワークシートの予習・前授業の復習
6	/	講義	骨格系 総論(骨の組織、分類、構造)について理解する	授業用ワークシートの予習・前授業の復習
7	/	講義	骨格系 各論 脊柱を理解する	授業用ワークシートの予習・前授業の復習
8	/	講義	骨格系 各論 胸部、上肢骨①(肩甲骨・鎖骨)を理解する	授業用ワークシートの予習・前授業の復習
9	/	講義	骨格系 各論 上肢骨②(上腕骨～上肢関節)を理解する	授業用ワークシートの予習・前授業の復習
10	/	講義	骨格系 各論 下肢帯の骨を理解する	授業用ワークシートの予習・前授業の復習
11	/	講義	骨格系 各論 自由下肢骨 下肢の関節を理解する	授業用ワークシートの予習・前授業の復習
12	/	講義	骨格系 各論 頭蓋を理解する①	授業用ワークシートの予習・前授業の復習
13	/	講義	骨格系 各論 頭蓋を理解する②	授業用ワークシートの予習・前授業の復習
14	/	講義	定期試験	
15	/	講義	試験解説	試験の復習
準備学習 時間外学習			次回授業の範囲はあらかじめ教科書に目を通し、配布しているワークシートを予習する	
【使用教科書・教材・参考書】				
解剖学 改訂第2版 適宜 ワークシート配布				



科目名 (英)	解剖学 ( )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	田中 志典
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 1 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	東北大学病院 歯科麻酔疼痛管理科に勤務し、令和2年4月より柔道整復科の解剖学担当となる。						
授業の 学習内容	筋系と体表解剖学について学習する。						
到達目標	柔道整復師に必要となる人体の構造について理解する。						
評価方法と基準	筆記試験と平常点(授業態度)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	7/28	講義	筋系 総論	講義内容の復習
2	8/18	講義	頭部の筋	講義内容の復習
3	8/25	講義	頸部の筋	講義内容の復習
4	9/1	講義	胸部の筋 呼吸運動	講義内容の復習
5	9/8	講義	腹部の筋	講義内容の復習
6	9/15	講義	背部の筋	講義内容の復習
7	9/22	講義	上肢の筋	講義内容の復習
8	9/29	講義	上肢の筋	講義内容の復習
9	10/6	講義	上肢の筋	講義内容の復習
10	10/13	講義	下肢の筋	講義内容の復習
11	10/20	講義	下肢の筋	講義内容の復習
12	10/27	講義	下肢の筋	講義内容の復習
13	11/3	講義	試験対策	試験勉強
14	11/10	試験	定期試験	
15	11/17	講義	試験解説	試験の復習
準備学習 時間外学習			教科書を読む。講義内容を復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】				
解剖学 改訂第2版、グレイ解剖学、人体の正常構造と機能				

科目名 (英)	解剖学 ( )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	田中 志典
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 1 )	開講区分	
教員の略歴	東北大学病院 歯科麻酔疼痛管理科に勤務し、令和2年4月より柔道整復科の解剖学担当となる。						
授業の 学習内容	神経系について学習する。						
到達目標	柔道整復師に必要となる人体の構造について理解する。						
評価方法と基準	筆記試験と平常点(授業態度)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	11/24	講義	神経系の基礎	講義内容の復習
2	12/1	講義	脳	講義内容の復習
3	12/8	講義	脳	講義内容の復習
4	12/15	講義	脊髄	講義内容の復習
5	12/22	講義	脊髄	講義内容の復習
6	1/12	講義	脳神経	講義内容の復習
7	1/19	講義	脊髄神経	講義内容の復習
8	1/26	講義	脊髄神経	講義内容の復習
9	2/2	講義	自律神経系	講義内容の復習
10	2/9	講義	外皮	講義内容の復習
11	2/16	講義	視覚器	講義内容の復習
12	2/23	講義	聴覚器および平衡器 味覚器 嗅覚器	講義内容の復習
13	/	講義	試験対策	試験勉強
14	3/2	試験	定期試験	
15	3/9	講義	試験解説	試験の復習
準備学習 時間外学習			教科書を読む。講義内容を復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】				
解剖学 改訂第2版、グレイ解剖学、人体の正常構造と機能				

科目名 (英)	生理学 ( Physiology )		必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	高橋英子 副校長
	学科・コース	柔道整復科 午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	東北大学医学部生理学第一講座助教(S56-58)、専門学校教員(H1~)、博士(医学)、薬学博士							
授業の学習 内容	生理学は、解剖学と共に、柔整師として生体(人体)を理解するために必要な基礎医学の中で最も重要な教科の一つです。これらの理解なくして、柔道整復師として必要な他の分野も理解できず、進歩ありません。医療従事者として必要な「人が生きているとはどういうことか」、生命現象の仕組みを幅広く理解する。基本的には、教科書に沿って、授業を展開する。また、国家試験問題にも対応できるように、過去問題等にも触れながら学習する。							
到達目標	① 医療従事者として必要な「人が生きているとはどういうことか」、体の仕組みを幅広く理解する。 ② 柔道整復師資格取得を目指し、基本的な生理学の知識の習得はもちろんのこと、体の“働きや仕組み”を理解し、自身の健康にも目を向ける視座の会得をも目指す。							
評価方法と 基準	定期試験(筆記試験)による評価(100%)、60点以上を合格とする							
授業計画・内容								
回数	日程	授業 形態	学習内容			準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義	教科ガイダンス			シラバスをよく読んで、この教科の到達目標を理解すること		
2		講義	第1章 生理学とは:細胞の機能的構造:細胞膜について学ぶ			学習したところをノートにまとめること		
3		講義	第1章 細胞の機能的構造:核について学ぶ			学習したところをノートにまとめること		
4		講義	第1章 組織・器官と生体の機能系について学ぶ			学習したところをノートにまとめること		
5		講義	第1章 生体の恒常性と統合機能、体液の区分と組成について学ぶ			学習したところをノートにまとめること		
6		講義	第9章 骨の生理:骨の構造、骨の成長について学ぶ (P133~135)			学習したところをノートにまとめること		
7		講義	第9章 骨の生理:骨の成長について学ぶ (P136~138)			学習したところをノートにまとめること		
8		講義	第2章 筋の生理:骨格筋の構造について学ぶ (P11~14)			学習したところをノートにまとめること		
9		講義	第2章 筋の生理:骨格筋の収縮と弛緩について学ぶ (P14~16)			学習したところをノートにまとめること		
10		講義	第2章 筋の生理:骨格筋と張力の関係について学ぶ(P17~19)			学習したところをノートにまとめること		
11		講義	第2章 筋の生理:筋電図、心筋、平滑筋について学ぶ (P19~21)			学習したところをノートにまとめること		
12		講義	第3章 神経の生理:神経系の構成要素、静止膜電位を理解する(P23~25)			学習したところをノートにまとめること		
13		講義	第3章 神経の生理:活動電位、活動電位の伝導を理解する(P25~27)			学習したところをノートにまとめること		
14		試験	1学期末試験			試験に備えて、計画的に勉強すること		
15		講義	試験解説			解説を聞いて、しっかり知識の定着を図ること		
準備学習 時間外学習								
【使用教科書・教材・参考書】教科書名:生理学 改訂第4版(南江堂)、生理学 改訂第3版(南江堂)参照								
単元ごとに必要に応じて、参考資料を配布。配布した資料は時系列にファイルすること。								

科目名 (英)	生理学	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	高橋英子 副校長
	( Physiology )	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	
学科・コース	柔道整復科 午前集中コース					曜日・時限	
教員の略歴	東北大学医学部生理学第一講座助教(S56-58)、専門学校教員(H1~)、博士(医学)、薬学博士						
授業の学習 内容	生理学は、解剖学と共に、柔整師として生体(人体)を理解するために必要な基礎医学の中で最も重要な教科の一つです。これらの理解なくして、柔道整復師として必要な他の分野も理解できず、進歩ありません。医療従事者として必要な「人が生きているとはどういうことか」、体の仕組みを幅広く理解する。基本的には、教科書に沿って、授業を展開する。また、国家試験問題にも対応できるように、過去問題等にも触れながら学習する。						
到達目標	① 医療従事者として必要な「人が生きているとはどういうことか」、体の仕組みを幅広く理解する。 ② 柔道整復師資格取得を目指し、基本的な生理学の知識の習得はもちろんのこと、体の“働きや仕組み”を理解し、自身の健康にも目を向ける視座の会得をも目指す。						
評価方法と 基準	定期試験(筆記試験)による評価(100%)、60点以上を合格とする						
授業計画・内容							
回数	日程	授業 形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義	第3章 神経の生理:活動電位の伝導を理解する(P26~27)	1学期の復習。シラバスをよく読んで、この教科の到達目標を理解すること			
2		講義	第3章 神経の生理:シナプスにおける興奮伝達、神経系の構成を理解する(P28~31)	学習したところをノートにまとめること			
3		講義	第8章 血液:血液の成分組成について学ぶ(P115~119)	学習したところをノートにまとめること			
4		講義	第8章 血液:血液の成分(白血球、血小板)について学ぶ(P119~125)	学習したところをノートにまとめること			
5		講義	第8章 血液:止血、血液型について学ぶ(P121~127)	学習したところをノートにまとめること			
6		講義	第8章 血液:免疫について学ぶ-その1(P127~132)	学習したところをノートにまとめること			
7		講義	第8章 血液:免疫について学ぶ-その2(P127~132)	学習したところをノートにまとめること			
8		講義	第10章 循環:心臓について学ぶ-その1(P139~145)	学習したところをノートにまとめること			
9		講義	第10章 循環:心臓について学ぶ-その2(P139~145)	学習したところをノートにまとめること			
10		講義	第10章 循環:心臓について学ぶ-その3(P139~148)	学習したところをノートにまとめること			
11		講義	第10章 循環:血管について学ぶ(P149~151)	学習したところをノートにまとめること			
12		講義	第10章 循環:リンパ系について学ぶ(P151~153)	学習したところをノートにまとめること			
13		講義	第10章 循環:循環調節について学ぶ(P153~157)	学習したところをノートにまとめること			
14		試験	2学期末試験	試験に備えて、計画的に勉強すること			
15		講義	試験解説	解説を聞いて、しっかり知識の定着を図ること			
準備学習 時間外学習							
【使用教科書・教材・参考書】教科書名:生理学 改訂第4版(南江堂)、生理学 改訂第3版(南江堂)参照							
单元ごとに必要に応じて、参考資料を配布。配布した資料は時系列にファイルすること。							

科目名 (英)	生理学	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	高橋英子 副校長
	( Physiology )	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	
学科・コース	柔道整復科 午前集中コース					曜日・時限	
教員の略歴	東北大学医学部生理学第一講座助教(S56-58)、専門学校教員(H1~)、博士(医学)、薬学博士						
授業の学習 内容	生理学は、解剖学と共に、柔整師として生体(人体)を理解するために必要な基礎医学の中で最も重要な教科の一つです。これらの理解なくして、柔道整復師として必要な他の分野も理解できず、進歩ありません。医療従事者として必要な「人が生きているとはどういうことか」、体の仕組みを幅広く理解する。基本的には、教科書に沿って、授業を展開する。また、国家試験問題にも対応できるように、過去問題等にも触れながら学習する。						
到達目標	① 医療従事者として必要な「人が生きているとはどういうことか」、体の仕組みを幅広く理解する。 ② 柔道整復師資格取得を目指し、基本的な生理学の知識の習得はもちろんのこと、体の“働きや仕組み”を理解し、自身の健康にも目を向ける視座の会得をも目指す。						
評価方法と 基準	定期試験(筆記試験)による評価(100%)、60点以上を合格とする						
授業計画・内容							
回数	日程	授業 形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義	第11章 呼吸の生理;呼吸器系の構造、換気について学ぶ(P159~164)	シラバスをよく読んで、この教科書の到達目標を理解すること			
2		講義	第11章 呼吸の生理;ガス交換と運搬について学ぶ(P164~168)	学習したところをノートにまとめること			
3		講義	第11章 呼吸の生理;呼吸周期の調節について学ぶ(P168~170)	学習したところをノートにまとめること			
4		講義	呼吸の生理のまとめ	学習したところをノートにまとめること			
5		講義	第12章 尿の生成と排泄について学ぶーその1(P171~173)	学習したところをノートにまとめること			
6		講義	第12章 尿の生成と排泄について学ぶーその2(P173~174)	学習したところをノートにまとめること			
7		講義	第12章 尿の生成と排泄について学ぶーその3	学習したところをノートにまとめること			
8		講義	第12章 尿の生成と排泄:排尿について学ぶーその4(P179~182)	学習したところをノートにまとめること			
9		講義	腎臓の生理のまとめ	学習したところをノートにまとめること			
10		講義	第13章 栄養と代謝について学ぶーその1(P183~189)	学習したところをノートにまとめること			
11		講義	第13章 栄養と代謝:エネルギー代謝について学ぶーその2(P189~191)	学習したところをノートにまとめること			
12		講義	第13章 栄養と代謝:栄養素の代謝について学ぶーその3(P192~195)	学習したところをノートにまとめること			
13		講義	1年次のまとめ	学習したところをノートにまとめること			
14		試験	3学期末試験	試験に備えて、計画的に勉強すること			
15		講義	試験解説	解説を聞いて、しっかり知識の定着を図ること			
準備学習 時間外学習							
【使用教科書・教材・参考書】教科書名:生理学 改訂第4版(南江堂)、生理学 改訂第3版(南江堂)参照							
単元ごとに必要に応じて、参考資料を配布。配布した資料は時系列にファイルすること。							

科目名 (英)	衛生学・公衆衛生	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	草間 太郎
	( Public Health )	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース					曜日・時限	
教員の略歴	H26歯科医師免許取得、H26,4～東北大学病院医員(研修医) H31,4～東北大学						
授業の 学習内容	衛生学・公衆衛生学全般について、パワーポイントのスライドと教科書を通して学ぶ。2学期は母指・学校・産業・成人高齢者・精神・地域・国際保健、衛生行政について学ぶ。						
到達目標	衛生・公衆衛生学を理解し、将来の仕事の中で活用できるようにすること。						
評価方法と基準	1.定期試験 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	衛生・公衆衛生の概要を説明できる。	教科書1～7ページ精読
2	/	講義	健康の概念、人口と指標について説明できる。	教科書9～22ページ精読
3	/	講義	疾病予防と健康管理を説明できる。	教科書23～30ページ精読
4	/	講義	感染症について理解できる。	教科書31～37ページ精読
5	/	講義	感染症について説明できる。	教科書38～48ページ精読
6	/	講義	消毒方法を説明できる。	教科書49～60ページ精読
7	/	講義	環境衛生の概要を理解できる。	教科書61～71ページ精読
8	/	講義	環境衛生について理解できる。	教科書72～81ページ精読
9	/	講義	環境衛生について説明できる。	教科書82～96ページ精読
10	/	講義	生活環境について説明できる。	教科書97～107ページ精読
11	/	講義	食品衛生について説明できる。	教科書118～120ページ精読
12	/	講義	1学期のまとめとして前半の復習	教科書1～60ページ精読
13	/	講義	1学期のまとめとして後半の復習	教科書61～120ページ精読
14	/	試験	筆記試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
衛生学・公衆衛生学/第6版/鈴木 庄亮/南江堂				

科目名 (英)	衛生学・公衆衛生	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	草間 太郎
	( Public Health )	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース						
教員の略歴	H26歯科医師免許取得、H26,4～東北大学病院医員(研修医) H31,4～東北大学						
授業の 学習内容	衛生学・公衆衛生学全般について、パワーポイントのスライドと教科書を通して学ぶ。2学期は母指・学校・産業・成人高齢者・精神・地域・国際保健、衛生行政について学ぶ。						
到達目標	衛生・公衆衛生学を理解し、将来の仕事の中で活用できるようにすること。						
評価方法と基準	1.定期試験 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	母子保健について説明できる。	教科書121～134ページ精読
2	/	講義	学校保健について説明できる。	教科書135～152ページ精読
3	/	講義	産業保健について理解できる。	教科書153～168ページ精読
4	/	講義	産業保健、成人・高齢者保健を理解できる。	教科書169～186ページ精読
5	/	講義	成人・高齢者保健について説明できる。	教科書186～192ページ精読
6	/	講義	精神保健について説明できる。	教科書193～203ページ精読
7	/	講義	地域保健、国際保健を説明できる。	教科書205～218ページ精読
8	/	講義	衛生行政と保健医療の制度を説明できる。	教科書219～227ページ精読
9	/	講義	衛生行政と保健医療の制度を説明できる。	教科書227～244ページ精読
10	/	講義	医療の倫理と安全の確保を説明できる。	教科書245～252ページ精読
11	/	講義	疫学を説明できる。	教科書253～263ページ精読
12	/	講義	2学期まとめ1	教科書121～192ページ精読
13	/	講義	2学期まとめ2	教科書193～263ページ精読
14	/	試験	筆記試験	
15	/	講義	試験解説	
16	/			
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
衛生学・公衆衛生学/第6版/鈴木 庄亮/南江堂				

科目名 (英)	柔道 ( )	必修 選択	必修	年次	1 学年	担当教員	川村 一之
学科・コース	柔道整復科 午前集中コース	授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 2	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2006年柔道整復師免許取得、2006年～2014年まで福岡医健付属慶生整骨院勤務 2011年柔道整復師専科教員免許取得						
授業の 学習内容	実技を主体として正しい礼法、受身、形、技を習得させる。						
到達目標	柔道整復師にとって柔道は根幹となるもの。その精神を学び健全な心と体を保ちしっかりとした礼儀を身につけさせる。						
評価方法と基準	実技試験:80%評価 筆記試験: 20%評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実技	柔道(オリエン含)について学ぶ	
2	/	実技	礼法(立礼、坐礼)、受身について学ぶ	授業の復習を行う
3	/	実技	礼法(立礼、坐礼)、受身(前受身)について学ぶ	授業の復習を行う
4	/	実技	受身(前受身、後受身)について学ぶ	授業の復習を行う
5	/	実技	受身(前受身、後受身、側方受身)について学ぶ	授業の復習を行う
6	/	実技	前回受身、側方受身、組手、足運について学ぶ	授業の復習を行う
7	/	実技	前回受身について学ぶ	授業の復習を行う
8	/	実技	前回受身について学ぶ	授業の復習を行う
9	/	実技	受身の復習	授業の復習を行う
10	/	実技	受身の復習	授業の復習を行う
11	/	実技	定期試験(実技)対策	授業の復習を行う
12	/	実技	定期試験(実技)対策	授業の復習を行う
13	/	試験	実技試験	
14	/	試験	筆記試験	
15	/	実技	解説、復習	不足の部分の復習を行う
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
講道館 柔道 投の形のDVD				



科目名 (英)	柔道	必修 選択	必修	年次	1学年	担当教員	川村 一之
学科・コース	( ) 柔道整復科 午前集中コース	授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 2	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2006年柔道整復師免許取得、2006年～2014年まで福岡医健付属慶生整骨院勤務 2011年柔道整復師専科教員免許取得						
授業の 学習内容	実技を主体として正しい礼法、受身、形、技を習得させる。						
到達目標	柔道整復師にとって柔道は根幹となるもの。その精神を学び健全な心と体を保ちしっかりとした礼儀を身につけさせる。						
評価方法と基準	実技試験:80%評価 筆記試験: 20%評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実技	1学期の復習を行い、投の形を学ぶ	
2	/	実技	投の形、自然体、継足、寝技を学ぶ	授業の復習を行う
3	/	実技	投の形(手技、浮落)を学ぶ	授業の復習を行う
4	/	実技	投の形(手技、浮落)を学ぶ	授業の復習を行う
5	/	実技	投の形(手技、浮落)を学ぶ	授業の復習を行う
6	/	実技	投の形(手技、浮落)を学ぶ	授業の復習を行う
7	/	実技	投の形(手技、背負投)を学ぶ	授業の復習を行う
8	/	実技	投の形(手技、背負投)を学ぶ	授業の復習を行う
9	/	実技	投の形(手技、背負投)を学ぶ	授業の復習を行う
10	/	実技	投の形(手技、背負投)を学ぶ	授業の復習を行う
11	/	実技	柔道の形、受身を学ぶ	授業の復習を行う
12	/	実技	柔道の形、受身を学ぶ	授業の復習を行う
13	/	試験	実技試験	
14	/	試験	筆記試験	
15	/	実技	解説、復習	理解不足の部分の復習を行う
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
講道館 柔道 投の形のDVD				

科目名 (英)	職業倫理 ( )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	門間 鳳植
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	曜日・時限
学科・コース	柔道整復科 午前集中コース						
教員の略歴	2017.4柔道整復師免許取得 2022.10柔道整復師専科教員免許取得 2017.4～接骨院勤務 2018.4～本校勤務、仙台医健付属整骨院勤務						
授業の 学習内容	医療従事者としての職業倫理を学び、また柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応を学ぶ。 患者への対応を学ぶ。						
到達目標	柔道整復師としての職業倫理を理解し、説明できる。						
評価方法と基準	筆記試験：100% だが授業内での平常点を加算する場合がある						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	職業倫理について理解する	ノートを整理する
2	/	講義	従来の倫理観から現代的倫理観への経緯について理解する	ノートを整理する
3	/	講義	従来の倫理観から現代的倫理観への経緯について理解する	ノートを整理する
4	/	講義	インフォームド・コンセントについて理解する	ノートを整理する
5	/	講義	インフォームド・アセントについて理解する	ノートを整理する
6	/	講義	守秘義務について理解する	ノートを整理する
7	/	講義	個人情報保護について理解する	ノートを整理する
8	/	講義	SNS等での業務に関する情報について理解する	ノートを整理する
9	/	講義	患者への対応(医療契約)について理解する	ノートを整理する
10	/	講義	患者への対応(医療事故)について理解する	ノートを整理する
11	/	講義	患者への対応(暴言、暴行などを受けた場合)について理解する	ノートを整理する
12	/	講義	患者への対応(施術料未払等)について理解する	ノートを整理する
13	/	講義	職業倫理全般について理解する	試験前の復習を行う
14	/	試験	試験	
15	/	講義	解説	理解不足の部分の復習を行う
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理				

科目名 (英)	柔道整復学1	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	櫻田 裕
	( )	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 3	開講区分	1学期
学科・コース	柔道整復科 午前集中コース					曜日・時限	
教員の略歴	1981年柔道整復師免許取得、1985年から赤門鍼灸柔整専門学校勤務、2004年から北東北東洋医療専門学校勤務、2007年から仙台医健専門学校勤務し現在に至る。宮城県柔道整復師会会長						
授業の 学習内容	柔道整復師として必要な概説や総論について基本となる知識を学ぶ。						
到達目標	骨折や脱臼、捻挫、その他筋、腱などの軟部損傷に対して施術を行う上で必要な基本的知識を総合的に説明できる。						
評価方法と基準	筆記試験:100% だが授業内での平常点を加算する場合がある						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	柔道整復師の沿革について理解する	ノートを整理する
2	/	講義	柔道整復師と柔道について理解する	ノートを整理する
3	/	講義	業務範囲と心得について理解する	ノートを整理する
4	/	講義	損傷について理解する	ノートを整理する
5	/	講義	痛みについて理解する	ノートを整理する
6	/	講義	骨の形態と機能について理解する	ノートを整理する
7	/	講義	骨の損傷の概説について理解する	ノートを整理する
8	/	講義	骨折の分類について理解する	ノートを整理する
9	/	講義	骨折の症状について理解する	ノートを整理する
10	/	講義	骨折の合併症について理解する	ノートを整理する
11	/	講義	小児骨折について理解する	ノートを整理する
12	/	講義	高齢者骨折について理解する	ノートを整理する
13	/	講義	1学期のまとめとして学ぶ	試験前の復習を行う
14	/	試験	試験	
15	/	講義	解説	理解不足の部分の復習を行う
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学理論編第6版				

科目名 (英)	柔道整復学1	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	櫻田 裕
	( )	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90	開講区分	2学期
学科・コース	柔道整復科 午前集中コース				3	曜日・時限	
教員の略歴	1981年柔道整復師免許取得、1985年から赤門鍼灸柔整専門学校勤務、2004年から北東北東洋医療専門学校勤務、2007年から仙台医健専門学校勤務し現在に至る。宮城県柔道整復師会会長						
授業の 学習内容	柔道整復師として必要な概説や総論について基本となる知識を学ぶ。						
到達目標	骨折や脱臼、捻挫、その他筋、腱などの軟部損傷に対して施術を行う上で必要な基本的知識を総合的に説明できる。						
評価方法と基準	筆記試験:100% だが授業内での平常点を加算する場合がある						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	骨折の癒合日数について理解する	ノートを整理する
2	/	講義	骨折の治癒経過について理解する	ノートを整理する
3	/	講義	骨折の予後について理解する	ノートを整理する
4	/	講義	骨折の治癒に治癒について理解する	ノートを整理する
5	/	講義	関節の構造について理解する	ノートを整理する
6	/	講義	関節の機能について理解する	ノートを整理する
7	/	講義	関節損傷の概説について理解する	ノートを整理する
8	/	講義	関節損傷の分類について理解する	ノートを整理する
9	/	講義	損傷される組織について理解する	ノートを整理する
10	/	講義	鑑別診断について理解する	ノートを整理する
11	/	講義	関節構形成組織損傷について理解する	ノートを整理する
12	/	講義	脱臼について理解する	ノートを整理する
13	/	講義	2学期のまとめとして学ぶ	試験前の復習を行う
14	/	試験	試験	
15	/	講義	解説	理解不足の部分の復習を行う
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学理論編第6版				

科目名 (英)	柔道整復学1	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	櫻田 裕
	( )	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90	開講区分	3学期
学科・コース	柔道整復科 午前集中コース				3	曜日・時限	
教員の略歴	1981年柔道整復師免許取得、1985年から赤門鍼灸柔整専門学校勤務、2004年から北東北東洋医療専門学校勤務、2007年から仙台医健専門学校勤務し現在に至る。宮城県柔道整復師会会長						
授業の 学習内容	柔道整復師として必要な概説や総論について基本となる知識を学ぶ。						
到達目標	骨折や脱臼、捻挫、その他筋、腱などの軟部損傷に対して施術を行う上で必要な基本的知識を総合的に説明できる。						
評価方法と基準	筆記試験:100% だが授業内での平常点を加算する場合がある						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	頭部顔面部の解剖について理解する	ノートを整理する
2	/	講義	頭部顔面部の骨折について理解する	ノートを整理する
3	/	講義	頭蓋骨、顔面頭蓋骨折について理解する	ノートを整理する
4	/	講義	顎関節脱臼前方脱臼について理解する	ノートを整理する
5	/	講義	顎関節脱臼後方、側方脱臼について理解する	ノートを整理する
6	/	講義	頸椎の解剖と骨折について理解する	ノートを整理する
7	/	講義	頸椎の骨折について理解する	ノートを整理する
8	/	講義	頸椎脱臼について理解する	ノートを整理する
9	/	講義	胸部の骨折について理解する	ノートを整理する
10	/	講義	胸椎、胸椎の脱臼について理解する	ノートを整理する
11	/	講義	腰椎骨折について理解する	ノートを整理する
12	/	講義	腰椎脱臼について理解する	ノートを整理する
13	/	講義	3学期のまとめとして学ぶ	試験前の復習を行う
14	/	試験	試験	
15	/	講義	解説	理解不足の部分の復習を行う
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学理論編第6版				

科目名 (英)	柔道整復学Ⅱ		必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	渡邊博幸
学科・コース	柔道整復科 午前集中コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	1学期 曜日・時限
教員の略歴	H28柔道整復師国家資格取得、R1柔道整復師専科教員免許取得、H28～八木山整形外科クリニック勤務、R2～仙台医健スポーツ専門学校柔道整復科非常勤講師							
授業の学習 内容	柔道整復学理論(総論)では、柔道整復師の業を行う上で基礎となる筋損傷、腱損傷、末梢神経損傷、治療法を学ぶ。							
到達目標	① 医療従事者としての心構え、基礎知識、治療法を学び、社会での知識の活かし方を理解する。 ② 柔道整復学理論を通して、身体がどのように動き、損傷した組織はどのような状態にあるのかをイメージできるようにする。							
評価方法と基準	定期試験(筆記試験)による評価(100%)、60点以上を合格とする							
授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)			
1	5/14	講義	教科ガイダンス 柔道整復師の仕事とはなにかを学ぶ		復習を行う			
2	5/21	講義	筋の基礎知識: 筋の構造を学ぶ		復習を行う			
3	5/28	講義	筋の基礎知識: 筋の種類、血管、神経を学ぶ		復習を行う			
4	6/4	講義	筋損傷について: 筋損傷の概説、筋を損傷させる力を学ぶ		復習を行う			
5	6/11	講義	筋損傷について: 筋損傷の分類を学ぶ		復習を行う			
6		講義	筋損傷について: 筋損傷の症状及び治癒機序を学ぶ		復習を行う			
7		講義	腱の基礎知識: 腱の構造を学ぶ		復習を行う			
8		講義	腱の基礎知識: 腱の補助装置を学ぶ		復習を行う			
9		講義	腱損傷について: 腱損傷の概説、腱を損傷させる力を学ぶ		復習を行う			
10		講義	腱損傷について: 腱損傷の分類を学ぶ		復習を行う			
11		講義	腱損傷について: 腱損傷の症状及び治癒機序を学ぶ		復習を行う			
12		講義	末梢神経の基礎知識: 末梢神経の構造を学ぶ		復習を行う			
13		講義	授業の振り返り、総復習を行う		復習を行う			
14		試験		筆記試験				
15		講義		試験解説				
準備学習 時間外学習								
【使用教科書・教材・参考書】教科書名:柔道整復学 理論編(改訂第6版) (南江堂)								
単元ごとに必要に応じて、参考資料を配布								

科目名 (英)	柔道整復学Ⅱ		必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	渡邊博幸
学科・コース	柔道整復科 午前集中コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	2学期 曜日・時限
教員の略歴	H28柔道整復師国家資格取得、R1柔道整復師専科教員免許取得、H28～八木山整形外科クリニック勤務、R2～仙台医健スポーツ専門学校柔道整復科非常勤講師							
授業の学習 内容	柔道整復学理論(総論)では、柔道整復師の業を行う上で基礎となる筋損傷、腱損傷、末梢神経損傷、治療法を学ぶ。							
到達目標	① 医療従事者としての心構え、基礎知識、治療法を学び、社会での知識の活かし方を理解する。 ② 柔道整復学理論を通して、身体がどのように動き、損傷した組織はどのような状態にあるのかをイメージできるようにする。							
評価方法と基準	定期試験(筆記試験)による評価(100%)、60点以上を合格とする							
授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)			
1		講義	末梢神経損傷について： 末梢神経損傷の概説、末梢神経を損傷させる力を学ぶ		復習を行う			
2		講義	末梢神経損傷について： 末梢神経損傷の分類を学ぶ		復習を行う			
3		講義	末梢神経損傷について： 末梢神経損傷の症状及び治癒機序を学ぶ		復習を行う			
4		講義	診察：診察の流れと注意点を学ぶ		復習を行う			
5		講義	診察：診察の時期による分類を学ぶ		復習を行う			
6		講義	診察：治療計画の作成、施術録の取り扱いを学ぶ		復習を行う			
7		講義	治療を行う上での基礎知識：体位を学ぶ		復習を行う			
8		講義	整復法：整復の意義や目的を学ぶ		復習を行う			
9		講義	整復法：整復時の心くばり、注意点を学ぶ		復習を行う			
10		講義	骨折の整復法：整復の概説を学ぶ		復習を行う			
11		講義	骨折の整復法：整復の分類を学ぶ		復習を行う			
12		講義	脱臼の整復法：整復の概説を学ぶ		復習を行う			
13		講義	授業の振り返り、総復習を行う		復習を行う			
14		試験	筆記試験					
15		講義	試験解説					
準備学習 時間外学習								
【使用教科書・教材・参考書】教科書名：柔道整復学 理論編(改訂第6版) (南江堂)								
単元ごとに必要に応じて、参考資料を配布								

科目名 (英)	柔道整復学Ⅱ		必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	渡邊博幸
学科・コース	柔道整復科 午前集中コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	3学期 曜日・時限
教員の略歴	H28柔道整復師国家資格取得、R1柔道整復師専科教員免許取得、H28～八木山整形外科クリニック勤務、R2～仙台医健スポーツ専門学校柔道整復科非常勤講師							
授業の学習 内容	柔道整復学理論(総論)では、柔道整復師の業を行う上で基礎となる筋損傷、腱損傷、末梢神経損傷、治療法を学ぶ。							
到達目標	① 医療従事者としての心構え、基礎知識、治療法を学び、社会での知識の活かし方を理解する。 ② 柔道整復学理論を通して、身体がどのように動き、損傷した組織はどのような状態にあるのかをイメージできるようにする。							
評価方法と基準	定期試験(筆記試験)による評価(100%)、60点以上を合格とする							
授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)			
1		講義	脱臼の整復法: 整復の分類を学ぶ		復習を行う			
2		講義	軟部組織損傷: 損傷後の初期処置を学ぶ		復習を行う			
3		講義	固定法: 固定の意義や目的を学ぶ		復習を行う			
4		講義	固定法: 固定後の気遣いや注意点を学ぶ		復習を行う			
5		講義	後療法: 後療法の概説を学ぶ		復習を行う			
6		講義	手技療法: 手技療法の意義や目的を学ぶ		復習を行う			
7		講義	手技療法: 手技療法の基本型を学ぶ		復習を行う			
8		講義	手技療法: 手技療法の適応や注意点を学ぶ		復習を行う			
9		講義	運動療法: 運動療法の意義や目的を学ぶ		復習を行う			
10		講義	運動療法: 運動療法の基本型を学ぶ		復習を行う			
11		講義	運動療法: 運動療法の種類を学ぶ		復習を行う			
12		講義	運動療法: 運動療法の適応や注意点を学ぶ		復習を行う			
13		講義	授業の振り返り、復習を行う		復習を行う			
14		試験	筆記試験					
15		講義	試験解説					
準備学習		時間外学習						
【使用教科書・教材・参考書】教科書名: 柔道整復学 理論編(改訂第6版) (南江堂)								
単元ごとに必要に応じて、参考資料を配布								



科目名 (英)	外傷保存療法の経過及び治癒の判定 ( )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	菊池 こずえ
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 1 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	平成14年柔道整復師免許取得 平成17年草加西口接骨院勤務 平成17年柔道整復師専科教員修了証取得 平成18年大宮医療専門学院に常勤講師として勤務 平成21年草加西口接骨院・大宮医療専門学院退職、仙台医健専門学校(現仙台医健・スポーツ専門学校)に常勤講師として勤務						
授業の 学習内容	柔道整復師の業務である指導管理について理解させる 外傷の予防に必要な知識を身につける						
到達目標	外傷に対する評価や問題へのアプローチについて理解する 必要となる計測を実際に行う						
評価方法と基準	筆記試験:100% 授業進度により小テストを適宜実施、筆記試験問題として出題する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	指導管理(環境・姿勢・歩行)	事前学習プリントを配布
2	/	講義	指導管理(衣服・食事・清潔保持・トイ	事前学習プリントを配布
3	/	講義	指導管理(住居環境・就労・自己管理	事前学習プリントを配布
4	/	講義	外傷予防(第1段階・運動機能向上・身	事前学習プリントを配布
5	/	講義	外傷予防(身体の基礎的状態)	事前学習プリントを配布
6	/	講義	外傷予防(身体の基礎的状態)	事前学習プリントを配布
7	/	講義	外傷予防(身体の基礎的状態)	事前学習プリントを配布
8	/	講義	外傷予防(身体機能)	事前学習プリントを配布
9	/	講義	外傷予防(環境要因)	事前学習プリントを配布
10	/	講義	外傷予防(啓発活動)	事前学習プリントを配布
11	/	講義	外傷予防(啓発活動)	事前学習プリントを配布
12	/	講義	外傷予防(特異的予防・第2段階・第3	事前学習プリントを配布
13	/	講義	移動・バランス能力測定	事前学習プリントを配布
14	/	試験	試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学・理論編改訂第6版、適宜プリントを配布				

科目名 (英)	高齢者・競技者の外傷予防 ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	菊池 こそえ
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース						
教員の略歴	平成14年柔道整復師免許取得 平成17年草加西口接骨院勤務 平成17年柔道整復師専科教員修了証取得 平成18年大宮医療専門学院に常勤講師として勤務 平成21年草加西口接骨院・大宮医療専門学院退職、仙台医健専門学校(現仙台医健・スポーツ&こども専門学校)に常勤講師として勤務						
授業の 学習内容	運動生理、競技別の外傷の理解・コンディショニング・予防について理解させる また、メディカルチェック・コンディショニングの方法を理解・実施できるよう実技指導を行う						
到達目標	運動の目的と問題点、競技別の外傷とその予防・リハビリについて理解し実施できるようにする						
評価方法と基準	筆記試験：100% 授業進度により小テストを適宜実施、筆記試験問題として出題する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	講義の説明、運動生理の概要(影響・エネルギー代謝)	事前学習プリントを配布
2	/	講義	講義の説明、運動生理の概要(影響・エネルギー代謝)	事前学習プリントを配布
3	/	講義	運動生理の概要(骨・筋、呼吸・循環)	事前学習プリントを配布
4	/	講義	運動生理の概要(骨・筋、呼吸・循環)	事前学習プリントを配布
5	/	講義	運動生理の概要(ホルモン、特徴)	事前学習プリントを配布
6	/	講義	運動生理の概要(ホルモン、特徴)	事前学習プリントを配布
7	/	講義	外傷予防 概論	事前学習プリントを配布
8	/	講義	外傷予防 概論	事前学習プリントを配布
9	/	講義	メディカルチェック(弛緩・タイトネステスト・アライメント)実技	事前学習プリントを配布
10	/	講義	コンディショニングの方法(セルフケア・アイシング)	事前学習プリントを配布
11	/	講義	コンディショニングの方法(マッサージ・トレーニング)	事前学習プリントを配布
12	/	講義	スポーツテーピングの方法	事前学習プリントを配布
13	/	講義	スポーツテーピングの方法	事前学習プリントを配布
14	/	講義	筆記試験	
15	/	講義	試験解説	試験問題の復習
16	/			
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	基礎柔道整復実技 I ( )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	田村 博
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2000年～柔道整復師資格取得後整形外科勤務 2001年～接骨院勤務 2004年独立開業						
授業の 学習内容	人体各部の名称, 関節の名称, 骨の部位名の講義ならびに演習. 小テスト.						
到達目標	1.各骨の部位名が言える.						
評価方法と基準	実技試験ならびに期末定期試験に, 小テストの成績を加味する.						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義/演習	全身の骨の名称を学び, 理解する	教科書の読めない言葉を調べる
2	/	講義/演習	関節運動の名称を学び, 理解する	第1回目の復習
3	/	講義/演習	鎖骨の部位名を学び, 理解する	第2回目の復習
4	/	講義/演習	肩甲骨の部位名を学び, 理解する	第3回目の復習
5	/	講義/演習	上腕骨の部位名を学び, 理解する	第4回目の復習
6	/	講義/演習	橈骨の部位名を学び, 理解する	第5回目の復習
7	/	講義/演習	尺骨の部位名を学び, 理解する	第6回目の復習
8	/	講義/演習	手部の骨の部位名を学び, 理解する	第7回目の復習
9	/	講義/演習	寛骨の部位名を学び, 理解する	第8回目の復習
10	/	講義/演習	大腿骨の部位名を学び, 理解する	第9回目の復習
11	/	講義/演習	下腿骨の部位名を学び, 理解する	第10回目の復習
12	/	講義/演習	足部の骨の部位名を学び, 理解する	第11回目の復習
13	/	試験	実技試験	
14	/	試験	定期試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
解剖学改訂第2版 医歯薬出版				

科目名 (英)	基礎柔道整復実技 I ( )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	田村 博
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2000年～柔道整復師資格取得後整形外科勤務 2001年～接骨院勤務 2004年独立開業						
授業の 学習内容	臨床実習に際して必要な技術である身体各部の測定を行う。						
到達目標	各部位の長さ・周径・ROMの測定が出来る。						
評価方法と基準	実技試験ならびに期末定期試験の成績。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義/演習	評価・感度・特異度を学び, 理解する	各自,間に合わない分は時間外学習が必要
2	/	講義/演習	測定の目的を学び, 理解する	各自,間に合わない分は時間外学習が必要
3	/	講義/演習	ランドマークの触診を行い, 理解する	各自,間に合わない分は時間外学習が必要
4	/	講義/演習	上肢長の測定を行い, 理解する	各自,間に合わない分は時間外学習が必要
5	/	講義/演習	身体各部位の長さを測定し, 理解する	各自,間に合わない分は時間外学習が必要
6	/	講義/演習	身体各部位の長さを測定し, 理解する	各自,間に合わない分は時間外学習が必要
7	/	講義/演習	周径測定法を学び, 理解する	各自,間に合わない分は時間外学習が必要
8	/	講義/演習	これまで学んだ測定を行い, 理解する	各自,間に合わない分は時間外学習が必要
9	/	講義/演習	関節可動域を学び, 理解する	各自,間に合わない分は時間外学習が必要
10	/	講義/演習	関節可動域測定を行い, 理解する	各自,間に合わない分は時間外学習が必要
11	/	講義/演習	関節可動域測定を行い, 理解する	各自,間に合わない分は時間外学習が必要
12	/	講義/演習	腱反射を学び, 理解する	各自,間に合わない分は時間外学習が必要
13	/	試験	実技試験	
14	/	試験	定期試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 講師が作成した資料				

科目名 (英)	基礎柔道整復実技 I ( )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	田村 博
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2000年～柔道整復師資格取得後整形外科勤務 2001年～接骨院勤務 2004年独立開業						
授業の 学習内容	柔道整復師業務の根幹をなす包帯の演習を行う。						
到達目標	各包帯法が、きれいで緩みなくきつくなく巻ける。						
評価方法と基準	実技試験ならびに期末定期試験に、各課題の成績を加味する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義/演習	手関節・母指の包帯を巻く	各自間に合わない分は時間外学習が必要
2	/	講義/演習	環小指・中環指の包帯を巻く	各自間に合わない分は時間外学習が必要
3	/	講義/演習	肘・股関節の包帯を巻く	各自間に合わない分は時間外学習が必要
4	/	講義/演習	大腿部・肩上行麦穂帯の包帯を巻く	各自間に合わない分は時間外学習が必要
5	/	講義/演習	肩下行麦穂帯・膝亀甲帯の包帯を巻く	各自間に合わない分は時間外学習が必要
6	/	講義/演習	下腿麦穂亀甲帯・足関節の包帯を巻く	各自間に合わない分は時間外学習が必要
7	/	講義/演習	母趾・胸十字帯の包帯を巻く	各自間に合わない分は時間外学習が必要
8	/	講義/演習	背十字帯・胸背十字帯の包帯を巻く	各自間に合わない分は時間外学習が必要
9	/	講義/演習	右デゾー帯の包帯を巻く	各自間に合わない分は時間外学習が必要
10	/	講義/演習	左デゾー帯の包帯を巻く	各自間に合わない分は時間外学習が必要
11	/	講義/演習	ヴェルポー帯の包帯を巻く	各自間に合わない分は時間外学習が必要
12	/	講義/演習	ジュール帯の包帯を巻く	各自間に合わない分は時間外学習が必要
13	/	試験	実技試験	
14	/	試験	定期試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
包帯固定学改訂第2版 南江堂				

科目名 (英)	臨床前施術試験等 ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	早坂 健
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 ( 1 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2002年柔道整復師免許取得後浅沼整形勤務 2011年6月こおりやま接骨院開設 2016月柔道整復師専科教員取得、2017年～仙台医健 非常勤講師						
授業の 学習内容	①徒手検査法・筋力検査法の理論を理解し、実技を体験・実施する。 ②上肢・下肢の代表的な筋の触察を実施・体験する。 ③評価内容を正確に施術録に記載する。						
到達目標	臨床に必要な徒手検査法・筋力検査の目的や意義を理解し適切な実技方法を習得できるようになる。また、その基礎となる筋の触察において指標をもとに的確に触れることができるようになる。さらにその記録を正確に施術録に記載できるようになる。						
評価方法と基準	実技評価:40%、 デイリーノート・出席率・授業態度:10%、 筆記試験:50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	徒手検査法 体幹編を学ぶ ①	復習を行う
2		演習	徒手検査法 体幹編を学ぶ ②	復習を行う
3		演習	徒手検査法 上肢を学ぶ ①	復習を行う
4		実技テスト	実技テスト 前編	復習を行う
5		演習	徒手検査法 上肢を学ぶ ②	復習を行う
6		演習	徒手検査法 下肢を学ぶ ①	復習を行う
7		演習	徒手検査法 下肢を学ぶ ②	復習を行う
8		演習	徒手筋力検査法 (MMT) 上肢を学ぶ	復習を行う
9		演習	徒手筋力検査法 (MMT) 下肢を学ぶ	復習を行う
10		演習	筋の触察 上肢を学ぶ	復習を行う
11		演習	筋の触察 下肢を学ぶ	復習を行う
12		実技テスト	実技テスト 後編	復習を行う
13		演習	筆記試験について、総復習を行う	復習を行う
14		試験	試験	
15		演習	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	解剖学 ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	大沼 英子
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	東北大学歯学部卒業後、同大学院医学研究科病理学系にて解剖、病理を学び、歯科医師として臨床現場で活躍しながら1995年より専門学校にて非常勤講師を務める。						
授業の 学習内容	人体を構成する各器官の位置、構造、さらに機能について関連する器官とあわせて学ぶ。						
到達目標	人体の正常構造を理解し、機能と関連づけて構造を説明できる。 人体の構造についての確に表現出来るようになるとともに、臨床医学の修得に必要な解剖学に関する基学力を身につける。						
評価方法と基準	定期試験80% 小テストおよび出席・授業態度等の平常点20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	脈管系 総論を学ぶ	復習を行う
2	/	講義	脈管系 総論を学ぶ	復習を行う
3	/	講義	脈管系 心臓1を学ぶ	復習を行う
4	/	講義	脈管系 心臓2を学ぶ	復習を行う
5	/	講義	脈管系 心臓3を学ぶ	復習を行う
6	/	講義	脈管系 血管系総論を学ぶ	復習を行う
7	/	講義	脈管系 各論1を学ぶ	復習を行う
8	/	講義	脈管系 各論2を学ぶ	復習を行う
9	/	講義	脈管系 各論3を学ぶ	復習を行う
10	/	講義	脈管系 各論4を学ぶ	復習を行う
11	/	講義	脈管系 各論5を学ぶ	復習を行う
12	/	講義	脈管系 各論6を学ぶ	復習を行う
13	/	講義	脈管系まとめを行う	復習を行う
14	/	試験	定期試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
解剖学 改訂第2版 適宜 プリント配布				

科目名 (英)	解剖学	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	大沼 英子
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 (3)	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	東北大学歯学部卒業後、同大学院医学研究科病理学系にて解剖、病理を学び、歯科医師として臨床現場で活躍しながら1995年より専門学校にて非常勤講師を務める。						
授業の 学習内容	人体を構成する各器官の位置、構造、さらに機能について関連する器官とあわせて学ぶ。						
到達目標	人体の正常構造を理解し、機能と関連づけて構造を説明できる。 人体の構造についての確に表現出来るようになるとともに、臨床医学の修得に必要な解剖学に関する基学力を身につける。						
評価方法と基準	定期試験80% 小テストおよび出席・授業態度等の平常点20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	内臓器 概論を学ぶ	復習を行う
2	/	講義	内臓器 消化器系1を学ぶ	復習を行う
3	/	講義	内臓器 消化器系2を学ぶ	復習を行う
4	/	講義	内臓器 消化器系3を学ぶ	復習を行う
5	/	講義	内臓器 消化器系4を学ぶ	復習を行う
6	/	講義	内臓器 消化器系5を学ぶ	復習を行う
7	/	講義	内臓器 消化器系6 肝・胆・膵を学ぶ	復習を行う
8	/	講義	内臓器 消化器系7 肝・胆・膵を学ぶ	復習を行う
9	/	講義	呼吸器を学ぶ	復習を行う
10	/	講義	呼吸器を学ぶ	復習を行う
11	/	講義	呼吸器を学ぶ	復習を行う
12	/	講義	消化器系・呼吸器まとめを行う	復習を行う
13	/	講義	復習を行う	復習を行う
14	/	試験	定期試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
解剖学 改訂第2版 適宜 プリント配布				



科目名 (英)	解剖学	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	大沼 英子
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 (3)	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	東北大学歯学部卒業後、同大学院医学研究科病理学系にて解剖、病理を学び、歯科医師として臨床現場で活躍しながら1995年より専門学校にて非常勤講師を務める。						
授業の 学習内容	人体を構成する各器官の位置、構造、さらに機能について関連する器官とあわせて学ぶ。						
到達目標	人体の正常構造を理解し、機能と関連づけて構造を説明できる。 人体の構造についての確に表現出来るようになるとともに、臨床医学の修得に必要な解剖学に関する基学力を身につける。						
評価方法と基準	定期試験80% 小テストおよび出席・授業態度等の平常点20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	内臓器 泌尿器1を学ぶ	復習を行う
2	/	講義	内臓器 泌尿器2を学ぶ	復習を行う
3	/	講義	内臓器 泌尿器3を学ぶ	復習を行う
4	/	講義	内臓器 泌尿器4を学ぶ	復習を行う
5	/	講義	内臓器 生殖器1を学ぶ	復習を行う
6	/	講義	内臓器 生殖器2を学ぶ	復習を行う
7	/	講義	内臓器 生殖器3を学ぶ	復習を行う
8	/	講義	内分泌1を学ぶ	復習を行う
9	/	講義	内分泌2を学ぶ	復習を行う
10	/	講義	脈管系内臓器系 統括1を学ぶ	復習を行う
11	/	講義	脈管系内臓器系 統括2を学ぶ	復習を行う
12	/	講義	脈管系内臓器系 統括3を学ぶ	復習を行う
13	/	講義	復習	復習を行う
14	/	試験	定期試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
解剖学 改訂第2版 適宜 プリント配布				

科目名 (英)	生理学 ( Physiology )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	和泉 博之
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	1976年～東北大学歯学部(生理学、口腔機能解析学)、東北大学医療短期大学看護学部(生理学)、宮城学院女子大学家政学部(生理学)、2003年～北海道医療大学歯学部(生理学)、北海道医療大学リハビリテーション学部						
授業の 学習内容	まず、1年次に学習した講義内容の復習を行いながら、続きの内容の学習を進めます。新しく学習した講義内容の復習も、各章ごとに進めながら理解度を強化します。ノートを取り、理解度を強化する努力を身につけます。国試対策用の4択問題も採用します。□						
到達目標	(1)人の生理学の基本的知識の習得□ (2)解剖学との関連性の理解 (3)臨床生理学との関連性の理解□						
評価方法と基準	定期試験(100%) (ノートなど持ち込み不可) □						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	第1章、科学史・科学単位	生理学関連の基礎知識の復習
2		講義	第2章 筋の生理学	筋肉の分類や収縮機構などの復習
3		講義	まとめ(第1章、第2章その他)	4択問題を中心に
4		講義	第3章 神経の生理(1)	興奮の発生・電動・伝達機構
5		講義	第3章 神経の生理(2)	中枢神経系の機能
6		講義	第3章 神経の生理(3)	自律神経系の機能
7		講義	まとめ(第3章)	穴埋め、4択問題を中心に
8		講義	第4章 運動の生理(1)	運動単位とは、筋電図
9		講義	第4章 神経の生理(2)	神経終板の役割と収縮
10		講義	第4章 神経の生理(3)	運動中枢(反射、脳幹)
11		講義	第4章 神経の生理(4)	運動中枢(錐体路)
12		講義	まとめ(第4章)	穴埋め、4択問題を中心に
13		講義	総まとめ	1学期の総復習
14		試験	定期試験	
15		講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 (教科書)「生理学」/彼末一之編集/南江堂 (参考書)標準生理学/小澤・福田総編集/医学書院				

科目名 (英)	生理学 ( Physiology )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	和泉 博之
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 1 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	1976年～東北大学歯学部(生理学、口腔機能解析学)、東北大学医療短期大学看護学部(生理学)、宮城学院女子大学家政学部(生理学)、2003年～北海道医療大学歯学部(生理学)、北海道医療大学リハビリテーション学部						
授業の 学習内容	まず、1年次に学習した講義内容の復習を行いながら、続きの内容の学習を進めます。新しく学習した講義内容の復習も、各章ごとに進めながら、理解度を強化します。ノートを取り、理解度を強化する努力を身につけます。国試対策用の4択問題も採用します。□						
到達目標	(1)人の生理学の基本的知識の習得□ (2)解剖学との関連性の理解 (3)臨床生理学との関連性の理解□						
評価方法と基準	定期試験(100%) (ノートなど持ち込み不可) □						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	第5章 感覚の生理(1)	感覚の分類と感覚器
2		講義	第5章 感覚の生理(2)	体性感覚、嗅覚、味覚
3		講義	第5章 感覚の生理(3)	特殊感覚(視覚)
4		講義	第5章 感覚の生理(4)	特殊感覚(聴覚、平衡感覚)
5		講義	第5章 感覚の生理(5)	痛覚
6		講義	まとめ(第5章)	穴埋め、4択問題を中心に
7		講義	第6章 内分泌(1)	内分泌の概念と分類
8		講義	第6章 内分泌(2)	視床下部と下垂体
9		講義	第6章 内分泌(3)	甲状腺と副甲状腺
10		講義	第6章 内分泌(4)	腎臓と副腎
11		講義	第6章 内分泌(5)	膵臓
12		講義	まとめ(第6章)	穴埋め、4択問題を中心に
13		講義	総まとめ	2学期の総復習
14		試験	定期試験	
15		講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 (教科書)「生理学」/彼末一之編集/南江堂 (参考書)標準生理学/小澤・福田総編集/医学書院				

科目名 (英)	生理学 ( Physiology )		必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	和泉 博之
	学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 1 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	1976年～東北大学歯学部(生理学、口腔機能解析学)、東北大学医療短期大学看護学部(生理学)、宮城学院女子大学家政学部(生理学)、2003年～北海道医療大学歯学部(生理学)、北海道医療大学リハビリテーション学部							
授業の 学習内容	まず、1年次に学習した講義内容の復習を行いながら、続きの内容の学習を進めます。新しく学習した講義内容の復習も、各章ごとに進めながら、理解度を強化します。ノートを取り、理解度を強化する努力を身につけます。国試対策用の4択問題も採用します。□							
到達目標	(1)人の生理学の基本的知識の習得□ (2)解剖学との関連性の理解 (3)臨床生理学との関連性の理解□							
評価方法と基準	定期試験(100%) (ノートなど持ち込み不可) □							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	第7章 生殖(1)	生殖関係ない分泌機構
2		講義	第7章 生殖(2)	性の分化、男性生殖器
3		講義	第7章 生殖(3)	女性生殖器、妊娠と分娩
4		講義	まとめ(第7章)	穴埋め、4択問題を中心に
5		講義	第15章 体温とその調節(1)	熱産生と放熱
6		講義	第15章 体温とその調節(2)	体温調節と病態
7		講義	まとめ(第15章)	穴埋め、4択問題を中心に
8		講義	第16章 高齢者の生理	加齢の生理学・運動機能
9		講義	第17章 発育の発達・生理学	成長・発育とトレーニング
10		講義	まとめ(第16/17章)	穴埋め、4択問題を中心に
11		講義	総まとめ	3学期の総復習
12		講義	総まとめ	総復習
13		講義	総まとめ	総復習
14		試験	定期試験	
15		講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 (教科書)「生理学」/彼末一之編集/南江堂 (参考書)標準生理学/小澤・福田総編集/医学書院				

科目名 (英)	運動学 ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	井内 正益
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 1 )	開講区分 曜日・時限	
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース						
教員の略歴	H27柔道整復師国家資格取得、H30柔道整復師専科教員免許取得、H31～仙台医健スポーツ&こども専門学校柔道整復科勤務						
授業の 学習内容	柔道整復師の業務を行う上で必要な運動器についての理解を深め、構造、作用について学習を行う。						
到達目標	運動器の機能と構造について説明できる。四肢体幹の運動について説明ができる。						
評価方法と基準	定期試験(筆記・四択試験)による評価(100%)、60点以上を合格とする						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1	/	講義	骨や関節の機能、構造について学ぶ。		復習を行う		
2	/	講義	上肢帯の運動について学ぶ。		復習を行う		
3	/	講義	肩関節の運動について学ぶ。		復習を行う		
4	/	講義	肘関節・前弯の運動について学ぶ。		復習を行う		
5	/	講義	手関節・手の運動について学ぶ。		復習を行う		
6	/	講義	股関節の運動について学ぶ。		復習を行う		
7	/	講義	膝関節の運動について学ぶ。		復習を行う		
8	/	講義	足関節・足部の運動について学ぶ。		復習を行う		
9	/	講義	体感・脊柱の運動について学ぶ。		復習を行う		
10	/	講義	頸椎の運動について学ぶ。		復習を行う		
11	/	講義	胸椎・胸郭の運動について学ぶ。		復習を行う		
12	/	講義	腰椎・仙椎・骨盤の運動について学ぶ。		復習を行う		
13	/	講義	顔面・頭部の運動について学ぶ。		復習を行う		
14	/		学期末試験				
15	/	講義	解説				
準備学習		時間外学習					

【使用教科書・教材・参考書】

「運動学」改訂第3版 医歯薬出版株式会社

科目名 (英)	運動学 ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	藤本 敏彦
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	1990年鹿屋体育大学修士課程修了後、東北大学にて勤務 准教授						
授業の 学習内容	運動学では運動生理学、運動力学、解剖学の知識を基礎として、筋の動作作用や姿勢の維持作用、歩行などへの関与を学習する。また単に理解するのではなく、柔整やスポーツの現場で治療やトレーニング、リハビリテーションに応用できるまでの知識に発展させることを目的とする。本授業では教員・学生双方の向上心が基盤となるため、双方の予習が必修となる。また授業への参加を促すため授業時の発表回数を評価基準に加える。						
到達目標	筋力の発生に関して説明ができる。筋の動作作用が説明できる。身体運動の神経メカニズムが説明できる。姿勢の維持、歩行のメカニズムが説明できる。成長や老化と運動能力の関係が説明できる。以上の内容と治療、リハビリ、トレーニングの関係性について説明できる。						
評価方法と基準	定期試験 90%、授業中の発表回数 10%、予習の忘れは減点 1回5点 授業時の居眠り、雑談等は教員の判断で減点。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	四肢と体幹の運動を学ぶ	四肢と体幹の運動の予習ノート
2	/	講義	四肢と体幹の運動を学ぶ	四肢と体幹の運動の予習ノート
3	/	講義	四肢と体幹の運動を学ぶ	四肢と体幹の運動の予習ノート
4	/	講義	四肢と体幹の運動を学ぶ	四肢と体幹の運動の予習ノート
5	/	講義	四肢と体幹の運動を学ぶ	四肢と体幹の運動の予習ノート
6	/	講義	四肢と体幹の運動を学ぶ	四肢と体幹の運動の予習ノート
7	/	講義	四肢と体幹の運動を学ぶ	四肢と体幹の運動の予習ノート
8	/	講義	四肢と体幹の運動を学ぶ	姿勢の予習ノート
9	/	講義	姿勢を学ぶ	歩行の予習ノート
10	/	講義	歩行を学ぶ	歩行の予習ノート
11	/	講義	歩行を学ぶ	運動発達の予習ノート
12	/	講義	運動発達を学ぶ	運動学習の予習ノート
13	/	講義	運動学習を学ぶ	試験準備
14	/	試験	期末試験	
15	/	講義	期末試験解説	試験振り返り
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
社団法人 全国柔道整復学校協会監修 「運動学」 改訂第3版 医歯薬出版株式会社				

科目名 (英)	病理学 ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	大沼 英子
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	東北大学歯学部卒業後、同大学院医学研究科病理学系にて解剖、病理を学び、歯科医師として臨床現場で活躍しながら1995年より専門学校にて非常勤講師を務める。						
授業の 学習内容	疾患の原因・経過及び症状をトータルな生命現象として理解し、細胞・組織・臓器・物質レベルで学習することで病的状態の分類・概論の基礎を習得する。さらに、疾患を理解するために各臓器に関する病変を病理学的に学ぶ。						
到達目標	疾病における臓器、組織、細胞の形態変化を理解し、各臓器に関する病変を病理学的に学ぶことで臨床医学と関連させた疾患の認識と理解を深める。						
評価方法と基準	定期試験 80% 小テストおよび出席状況、授業態度等の定常点20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	病理概説 病理の業務を学ぶ	復習を行う
2	/	講義	病理の業務 疾患の一般を学ぶ	復習を行う
3	/	講義	病因論1 内因を学ぶ	復習を行う
4	/	講義	病因論2 内因を学ぶ	復習を行う
5	/	講義	病因論3 外因を学ぶ	復習を行う
6	/	講義	病因論4 外因を学ぶ	復習を行う
7	/	講義	病因論5 外因を学ぶ	復習を行う
8	/	講義	病因論6 外因を学ぶ	復習を行う
9	/	講義	細胞障害1(定義・萎縮・変性)を学ぶ	復習を行う
10	/	講義	細胞障害2(代謝障害と疾患)を学ぶ	復習を行う
11	/	講義	細胞障害3(老化・壊死・死)を学ぶ	復習を行う
12	/	講義	循環障害1(血液の循環障害:充血・うっ血・虚血)を学ぶ	復習を行う
13	/	講義	循環障害2(出血・止血・血栓症)を学ぶ	復習を行う
14	/	試験	定期試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
病理学概論 改訂第3版 医歯薬出版				

科目名 (英)	病理学 ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	大沼 英子
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	東北大学歯学部卒業後、同大学院医学研究科病理学系にて解剖、病理を学び、歯科医師として臨床現場で活躍しながら1995年より専門学校にて非常勤講師を務める。						
授業の 学習内容	疾患の原因・経過及び症状をトータルな生命現象として理解し、細胞・組織・臓器・物質レベルで学習することで病的状態の分類・概論の基礎を習得する。さらに、疾患を理解するために各臓器に関する病変を病理学的に学ぶ。						
到達目標	疾病における臓器、組織、細胞の形態変化を理解し、各臓器に関する病変を病理学的に学ぶことで臨床医学と関連させた疾患の認識と理解を深める。						
評価方法と基準	定期試験 80% 小テストおよび出席状況、授業態度等の定常点20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	循環障害3(塞栓症・梗塞、リンパの循環障害)を学ぶ	復習を行う
2	/	講義	進行性病変1 肥大・化生・再生を学ぶ	復習を行う
3	/	講義	進行性病変2 創傷治癒・異物の処理・移植を学ぶ	復習を行う
4	/	講義	炎症1 原因・変化を学ぶ	復習を行う
5	/	講義	炎症2 変化・分類を学ぶ	復習を行う
6	/	講義	炎症3 分類を学ぶ	復習を行う
7	/	講義	免疫1 仕組み・変化を学ぶ	復習を行う
8	/	講義	免疫2 免疫不全を学ぶ	復習を行う
9	/	講義	免疫3 自己免疫疾患・アレルギーを学ぶ	復習を行う
10	/	講義	腫瘍1 定義・特徴を学ぶ	復習を行う
11	/	講義	腫瘍2 発達段階・原因・影響・分類を学ぶ	復習を行う
12	/	講義	腫瘍3 各臓器の腫瘍を学ぶ	復習を行う
13	/	講義	先天性異常を学ぶ	復習を行う
14	/	試験	定期試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
病理学概論 改訂第3版 医歯薬出版				



科目名 (英)	一般臨床医学 ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	鈴木 恵子
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	1988年弘前大学医学部卒業医師免許取得 東北大学医学博士取得 1988年より臨床現場勤務						
授業の 学習内容	高度な専門的機能を要求される柔道整復師にとって広い医学的知識に基づいた技術の向上が望まれる。解剖、生理、病理を総合して臨床の現場で必要な知識を理解できるように解説する。重要疾患については病態生理を理解できるように解説する。						
到達目標	柔道整復師として必要な基本的な診察の基本と内科疾患を中心とした疾患の概念を学び、臨床現場で注意を払わねばならない症状・所見の理解を深める。						
評価方法と基準	定期試験100% 60%未満の場合は追試験を実施する。準備学習の評価として授業中に口頭試問及び小テストを実施する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	診察の基本を理解する。問診ができる。視診のうち体格・体位を説明できる	教科書を読み疑問点を整理する。
2	/	講義	視診うち栄養状態、精神状態、異常運動を説明できる	教科書を読み疑問点を整理する。
3	/	講義	視診で特徴的な歩行、皮膚の状態 頭部・顔面を説明できる	教科書を読み疑問点を整理する。
4	/	講義	頸部、胸部、腹部・背部・腰部の視診上の特徴を説明できる	教科書を読み疑問点を整理する。
5	/	講義	四肢の視診の留意点と打診の方法を説明できる	教科書を読み疑問点を整理する。
6	/	講義	肺・心臓・腹部の聴診の意義と方法を説明できる	教科書を読み疑問点を整理する。
7	/	講義	皮膚・皮下組織と筋肉・骨・関節の触診の意義と方法を説明できる	教科書を読み疑問点を整理する。
8	/	講義	胸部・腹部・リンパ節の触診の方法及び生命徴候を説明できる	教科書を読み疑問点を整理する。
9	/	講義	知覚検査、表在・深部・複合知覚及び反射検査、表在・深部反射を説明できる	教科書を読み疑問点を整理する。
10	/	講義	病的反射、クローヌス、自律神経反射を説明できる	教科書を読み疑問点を整理する。
11	/	講義	代表的な臨床症状である発熱、出血傾向、リンパ節腫脹を説明できる	教科書を読み疑問点を整理する。
12	/	講義	代表的な臨床症状である意識障害、チアノーゼを説明できる	教科書を読み疑問点を整理する。
13	/	講義	代表的な臨床症状である関節痛、浮腫、肥満 やせを説明できる	教科書を読み疑問点を整理する。
14	/	試験	定期試験	
15	/	講義	試験解説	間違いを理解して修正する。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
一般臨床医学(第3版) 医歯薬出版				

科目名 (英)	一般臨床医学 ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	鈴木 恵子
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	1988年弘前大学医学部卒業医師免許取得 東北大学医学博士取得 1988年より臨床現場勤務						
授業の 学習内容	高度な専門的機能を要求される柔道整復師にとって広い医学的知識に基づいた技術の向上が望まれる。解剖、生理、病理を総合して臨床の現場に必要な知識を理解できるように解説する。重要疾患については病態生理を理解できるように解説する。						
到達目標	柔道整復師として必要な基本的な診察の基本と内科疾患を中心とした疾患の概念を学び、臨床現場で注意を払わねばならない症状・所見の理解を深める。						
評価方法と基準	定期試験100% 60%未満の場合は追試験を実施する。準備学習の評価として授業中に口頭試問及び小テストを実施する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	呼吸生理及び呼吸器感染症を説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
2	/	講義	COPD、気管支喘息、肺癌について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
3	/	講義	虚血性心疾患、弁膜症について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
4	/	講義	高血圧、不整脈について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
5	/	講義	動脈性疾患、静脈性疾患について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
6	/	講義	食道、胃疾患について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
7	/	講義	腸疾患について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
8	/	講義	脂肪肝、肝炎、肝癌について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
9	/	講義	胆道系疾患、膵臓疾患について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
10	/	講義	糖尿病、脂質異常症、痛風について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
11	/	講義	下垂体疾患について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
12	/	講義	甲状腺疾患について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
13	/	講義	副腎皮質、副腎髄質疾患について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
14	/	試験	第2セメスター試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
一般臨床医学(第3版) 医歯薬出版				

科目名 (英)	一般臨床医学 ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	鈴木 恵子
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	1988年弘前大学医学部卒業医師免許取得 東北大学医学博士取得 1988年より臨床現場勤務						
授業の 学習内容	高度な専門的機能を要求される柔道整復師にとって広い医学的知識に基づいた技術の向上が望まれる。解剖、生理、病理を総合して臨床の現場に必要な知識を理解できるように解説する。重要疾患については病態生理を理解できるように解説する。						
到達目標	柔道整復師として必要な基本的な診察の基本と内科疾患を中心とした疾患の概念を学び、臨床現場で注意を払わねばならない症状・所見の理解を深める。						
評価方法と基準	定期試験100% 60%未満の場合は追試験を実施する。準備学習の評価として授業中に口頭試問及び小テストを実施する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	貧血、白血病について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
2	/	講義	血小板疾患、血友病について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
3	/	講義	腎不全、急性糸球体腎炎について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
4	/	講義	尿管結石、尿路感染症について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
5	/	講義	脳血管障害について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
6	/	講義	パーキンソン病、ニューロン疾患について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
7	/	講義	神経感染症、筋肉疾患について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
8	/	講義	細菌感染症について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
9	/	講義	ウイルス感染症について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
10	/	講義	RA,SLEなど膠原病について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
11	/	講義	アレルギー疾患について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
12	/	講義	自己免疫性疾患について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
13	/	講義	熱中症、中毒について説明できる	講義中の質疑応答のための予習をする
14	/	試験	定期試験試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
一般臨床医学(第3版) 医歯薬出版				

科目名 (英)	外科学 ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	神崎 恵
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60(2)	開講区分 曜日・時限	金曜日不定 期
教員の略歴	筑波大学卒業 群馬大学大学院卒業 アイオワ大学及びニューヨーク州立大学にて基礎研究 現在、宮城厚生協会泉病院勤務						
授業の学習内 容	1学期 外科的処置、治療が必要となる病態とその概要について 2学期 救急処置を要する外傷(部位別各論)と疾患の診断から治療の進め方(腹部疾患を中心に)						
到達目標	外科学の基礎知識を学んだ上で、主に救急対応を必要とする外相について、現場で役立つ知識を身につける。						
評価方法と基準	定期テスト 90% プリント提出 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	外科の守備範囲	ノートとプリントの復習
2		講義	損傷 <創?傷?>	ノートとプリントの復習
3		講義	ショック <ショックを受けるのか?>	ノートとプリントの復習
4		講義	熱傷 <やけども命取りに。>	ノートとプリントの復習
5		講義	炎症(感染症) <感染症は克服できるのか?>	ノートとプリントの復習
6		講義	腫瘍 <外科のメインテーマ?>	ノートとプリントの復習
7		講義	輸血、輸液 <献血に行こう!>	ノートとプリントの復習
8		講義	消毒、滅菌 <アルコール消毒でいいのか?>	ノートとプリントの復習
9		講義	手術 <侵襲とは?>	ノートとプリントの復習
10		講義	麻酔 <手術に必須>	ノートとプリントの復習
11		講義	移植 <移植をめぐる問題>	ノートとプリントの復習
12		講義	交通外傷-1	ノートとプリントの復習
13		講義	交通外傷-2	ノートとプリントの復習
14		定期試験	定期試験	
15		講義	試験解説	理解度の確認と復習
準備学習 時間外学習		講義の内容を見直し、知識として定着させる。		
【使用教科書・教材・参考書】				
外科学概論 配布プリント				

科目名 (英)	外科学 ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	神崎 恵
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60(2)	開講区分 曜日・時限	金曜日不定 期
教員の略歴	筑波大学卒業 群馬大学大学院卒業 アイオワ大学及びニューヨーク州立大学にて基礎研究 現在、宮城厚生協会泉病院勤務						
授業の学習内 容	1学期 外科的処置、治療が必要となる病態とその概要について 2学期 救急処置を要する外傷(部位別各論)と疾患の診断から治療の進め方(腹部疾患を中心に)						
到達目標	外科学の基礎知識を学んだ上で、主に救急対応を必要とする外相について、現場で役立つ知識を身につける。						
評価方法と基準	定期テスト 90% プリント提出 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	手術を学ぶ	講義後のノートまとめ
2	/	講義	出血 麻酔を学ぶ	講義後のノートまとめ
3	/	講義	移植 免疫を学ぶ	講義後のノートまとめ
4	/	講義	救急救命を学ぶ	講義後のノートまとめ
5	/	講義	脳科学を学ぶ	講義後のノートまとめ
6	/	講義	脳疾患を学ぶ	講義後のノートまとめ
7	/	講義	心疾患①を学ぶ	講義後のノートまとめ
8	/	講義	心疾患②を学ぶ	講義後のノートまとめ
9	/	講義	心疾患③を学ぶ	講義後のノートまとめ
10	/	講義	心疾患①を学ぶ	講義後のノートまとめ
11	/	講義	消化器疾患①を学ぶ	講義後のノートまとめ
12	/	講義	消化器疾患②を学ぶ	講義後のノートまとめ
13	/	講義	まとめを行う	講義後のノートまとめ
14	/	試験	定期試験	
15	/	講義	試験解説	解説と出題内容の確認をさせる
準備学習 時間外学習		講義に内容の定着 復習内容の明確化		
【使用教科書・教材・参考書】				
外科学概論 改訂第4版				

科目名 (英)	柔道 ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	川村 一之
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2006年柔道整復師免許取得、2006年～2014年まで福岡医健付属慶生整骨院勤務 2011年柔道整復師専科教員免許取得						
授業の 学習内容	実技を主体として正しい礼法、受身、形、技を習得させる。						
到達目標	柔道整復師にとって柔道は根幹となるもの。その精神を学び健全な心と体を保ちしっかりとした礼儀を身につけさせる。						
評価方法と基準	実技試験:80% 筆記試験:20% 合計100%評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実技	1年次の復習を行う	講義内の内容を各自復習させる
2	/	実技	形 肩車(右)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
3	/	実技	形 肩車(左)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
4	/	実技	形 肩車(左右)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
5	/	実技	形 浮腰(右)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
6	/	実技	形 浮腰(左)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
7	/	実技	形 浮腰(左右)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
8	/	実技	形 払腰(右)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
9	/	実技	形 払腰(左)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
10	/	実技	形 払腰(左右)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
11	/	実技	実技試験のやり方を理解する	講義内の内容を各自復習させる
12	/	実技	総復習を行う	講義内の内容を各自復習させる
13	/	実技	実技試験	講義内の内容を各自復習させる
14	/	試験	筆記試験	
15	/	実技	試験解説、まとめ(復習)	講義内の内容を各自復習させる
16	/			
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
講道館 柔道 投の形のDVD				

科目名 (英)	柔道 ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	川村 一之
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2006年柔道整復師免許取得、2006年～2014年まで福岡医健付属慶生整骨院勤務 2011年柔道整復師専科教員免許取得						
授業の 学習内容	実技を主体として正しい礼法、受身、形、技を習得させる。						
到達目標	柔道整復師にとって柔道は根幹となるもの。その精神を学び健全な心と体を保ちしっかりとした礼儀を身につけさせる。						
評価方法と基準	実技試験:80% 筆記試験:20% 合計100%評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実技	形 釣込腰(右)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
2	/	実技	形 釣込腰(左)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
3	/	実技	形 送足払(右)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
4	/	実技	形 送足払(左)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
5	/	実技	形 支釣込足(右)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
6	/	実技	形 支釣込足(左)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
7	/	実技	形 内股(右)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
8	/	実技	形 内股(左)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
9	/	実技	形 内股(左右)を学ぶ	講義内の内容を各自復習させる
10	/	実技	実技試験の流れ(やり方)を理解する	講義内の内容を各自復習させる
11	/	実技	形 復習を行う	講義内の内容を各自復習させる
12	/	実技	総復習を行う	講義内の内容を各自復習させる
13	/	実技	実技試験	講義内の内容を各自復習させる
14	/	試験	筆記試験	
15	/	実技	試験解説、まとめ(復習)	講義内の内容を各自復習させる
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
講道館 柔道 投の形のDVD				

科目名 (英)	柔道整復学Ⅲ ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	田村 博
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2000.4～整形外科勤務 2001.10～接骨院勤務 2004.1～独立開業						
授業の 学習内容	柔道整復学理論編・上肢骨折の講義						
到達目標	1.上肢骨折のメカニズムを理解する。 2.上肢骨折の発生機序・症状・施術方法を口述できる。						
評価方法と基準	期末定期試験に授業態度を加味する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	鎖骨の骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
2		講義	鎖骨の骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
3		講義	肩関節部の解剖と機能を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
4		講義	肩甲骨の骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
5		講義	肩甲骨の骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
6		講義	上腕骨近位部の骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
7		講義	上腕骨近位部の骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
8		講義	上腕骨近位部の骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
9		講義	上腕部の解剖と機能・ 上腕骨骨幹部骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
10		講義	上腕骨骨幹部骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
11		講義	肘関節部の解剖と機能を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
12		講義	上腕骨遠位部の骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
13		講義	上腕骨遠位部の骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
14		定期試験		
15		試験解説		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学・理論編改訂第6版 南江堂				



科目名 (英)	柔道整復学Ⅲ ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	田村 博
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2000.4～整形外科勤務 2001.10～接骨院勤務 2004.1～独立開業						
授業の 学習内容	柔道整復学理論編・上肢骨折の講義						
到達目標	1.上肢骨折のメカニズムを理解する。 2.上肢骨折の発生機序・症状・施術方法を口述できる。						
評価方法と基準	期末定期試験に授業態度を加味する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	前腕近位部の骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
2		講義	前腕部の解剖と機能・前腕骨骨幹部骨折	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
3		講義	前腕骨骨幹部骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
4		講義	前腕骨骨幹部骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
5		講義	前腕骨骨幹部骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
6		講義	前腕骨骨幹部骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
7		講義	前腕骨骨幹部骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
8		講義	手関節部の解剖と機能・前腕骨遠位部 骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
9		講義	前腕骨遠位部骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
10		講義	前腕骨遠位部骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
11		講義	手根部骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
12		講義	手・指部の解剖と機能, 中手部骨折を	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
13		講義	指骨の骨折を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
14		定期試験		
15		試験解説		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学・理論編改訂第6版 南江堂				

科目名 (英)	柔道整復学Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	田村 博
	( 上肢脱臼 )						
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2000.4～整形外科勤務 2001.10～接骨院勤務 2004.1～独立開業						
授業の 学習内容	柔道整復学理論編・上肢脱臼の講義						
到達目標	1.上肢脱臼のメカニズムを理解する。 2.上肢脱臼の発生機序・症状・施術方法を口述できる。						
評価方法と基準	期末定期試験に授業態度を加味する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	臼・骨の連結・関節・肩甲上腕関節を学	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
2		講義	肩関節前方脱臼を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
3		講義	肩関節前方脱臼を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
4		講義	肩関節前方脱臼を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
5		講義	鎖骨脱臼を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
6		講義	鎖骨脱臼を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
7		講義	肘関節脱臼を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
8		講義	肘関節脱臼を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
9		講義	手関節脱臼を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
10		講義	月状骨脱臼を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
11		講義	手根中手関節脱臼を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
12		講義	指節間関節脱臼を学ぶ	教科書の該当部分を読んで 不明単語を調べておくこと。
13		講義	総復習を行う	試験対策を行う
14		講義	定期試験	
15		講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学・理論編改訂第6版 南江堂				

科目名 (英)	臨床柔道整復学 I ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	門間 鳳樹
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	1学期
教員の略歴	2017.4柔道整復師免許取得 2022.10柔道整復師専科教員免許取得 2017.4～接骨院勤務 2018.4～本校勤務、仙台医健付属整骨院勤務						
授業の 学習内容	柔道整復学を理解し、各骨折、脱臼の発生機序を理解し整復法、固定法、後療法を理解する						
到達目標	骨折や脱臼、捻挫、その他筋、腱などの軟部損傷に対して施術を行う上で必要な基本的知識を総合的に学習する、また高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に説明できる。						
評価方法と基準	100%筆記						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	骨盤骨折 骨盤骨単独骨折 骨盤骨輪骨折を学ぶ	復習を行う
2	/	講義	骨盤骨折 骨盤骨輪骨折を学ぶ	復習を行う
3	/	講義	大腿骨骨折 大腿骨頸部骨折を学ぶ	復習を行う
4	/	講義	大腿骨骨折 大腿骨頸部骨折を学ぶ	復習を行う
5	/	講義	大腿骨骨折 大腿骨骨幹部骨折を学ぶ	復習を行う
6	/	講義	大腿骨骨折 大腿骨骨幹部骨折を学ぶ	復習を行う
7	/	講義	大腿骨骨折 大腿骨遠位端部骨折を学ぶ	復習を行う
8	/	講義	大腿骨骨折 大腿骨遠位端部骨折を学ぶ	復習を行う
9	/	講義	膝蓋骨骨折を学ぶ	復習を行う
10	/	講義	膝蓋骨骨折 分裂膝蓋骨を学ぶ	復習を行う
11	/	講義	下腿骨骨折 下腿骨近位端部骨折を学ぶ	復習を行う
12	/	講義	下腿骨骨折を学ぶ	復習を行う
13	/	講義	下腿骨近位端部骨折を学ぶ	復習を行う
14	/	講義	試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学理論編				

科目名 (英)	臨床柔道整復学 I ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	門間 鳳樹
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	2学期
教員の略歴	2017.4柔道整復師免許取得 2022.10柔道整復師専科教員免許取得 2017.4～接骨院勤務 2018.4～本校勤務、仙台医健付属整骨院勤務						
授業の 学習内容	柔道整復学を理解し、各骨折、脱臼の発生機序を理解し整復法、固定法、後療法を理解する						
到達目標	骨折や脱臼、捻挫、その他筋、腱などの軟部損傷に対して施術を行う上で必要な基本的知識を総合的に学習する、また高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に説明できる。						
評価方法と基準	100%筆記						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	下腿骨骨折 下腿骨骨幹部骨折を学ぶ	復習を行う
2	/	講義	下腿骨骨折 下腿骨骨幹部骨折を学ぶ	復習を行う
3	/	講義	下腿骨骨折 下腿骨遠位端部骨折 足関節の脱臼骨折を学ぶ	復習を行う
4	/	講義	下腿骨骨折 下腿骨遠位端部骨折 足関節の脱臼骨折を学ぶ	復習を行う
5	/	講義	足指骨骨折 足根骨骨折を学ぶ	復習を行う
6	/	講義	足指骨骨折 足根骨骨折を学ぶ	復習を行う
7	/	講義	足指骨骨折 中足骨折を学ぶ	復習を行う
8	/	講義	足指骨骨折 中足骨折を学ぶ	復習を行う
9	/	講義	足指骨骨折を学ぶ	復習を行う
10	/	講義	足指骨骨折を学ぶ	復習を行う
11	/	講義	下肢骨折の復習を行う	復習を行う
12	/	講義	下肢骨折の復習を行う	復習を行う
13	/	講義	下肢骨折の復習を行う	復習を行う
14	/	講義	試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学理論編				

科目名 (英)	臨床柔道整復学 I ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	門間 鳳樹
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	3学期 曜日・時限
教員の略歴	2017.4柔道整復師免許取得 2022.10柔道整復師専科教員免許取得 2017.4～接骨院勤務 2018.4～本校勤務、仙台医健付属整骨院勤務						
授業の 学習内容	柔道整復学を理解し、各骨折、脱臼の発生機序を理解し整復法、固定法、後療法を理解する						
到達目標	骨折や脱臼、捻挫、その他筋、腱などの軟部損傷に対して施術を行う上で必要な基本的知識を総合的に学習する、また高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に説明できる。						
評価方法と基準	100%筆記						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	股関節脱臼を学ぶ	復習を行う
2	/	講義	股関節脱臼を学ぶ	復習を行う
3	/	講義	膝蓋骨脱臼を学ぶ	復習を行う
4	/	講義	膝蓋骨脱臼を学ぶ	復習を行う
5	/	講義	足指の脱臼を学ぶ	復習を行う
6	/	講義	大腿部筋損傷を学ぶ	復習を行う
7	/	講義	大腿部筋損傷を学ぶ	復習を行う
8	/	講義	膝関節靭帯損傷を学ぶ	復習を行う
9	/	講義	膝関節靭帯損傷を学ぶ	復習を行う
10	/	講義	下腿部筋損傷を学ぶ	復習を行う
11	/	講義	足部靭帯損傷を学ぶ	復習を行う
12	/	講義	脱臼の総復習を行う	復習を行う
13	/	講義	軟部損傷の総復習を行う	復習を行う
14	/	講義	筆記試験	
15	/	講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 柔道整復学理論編				

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅳ ( )		必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	川村 一之
	学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2006年柔道整復師免許取得、2006年～2014年まで福岡医健付属慶生整骨院勤務 2011年柔道整復師専科教員免許取得							
授業の 学習内容	柔道整復学、解剖学、生理学を中心に臨床的な講義を行い練習問題を解く							
到達目標	高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に学び理解する。							
評価方法と基準	筆記100%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
2		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
3		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
4		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
5		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
6		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
7		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
8		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
9		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
10		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
11		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
12		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
13		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
14		試験	定期試験	
15		講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学・理論編改訂第5版 南江堂				

科目名 (英)	基礎柔道整復実技Ⅱ ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	早坂 健
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	1学期
曜日・時限							
教員の略歴	2002年柔道整復師免許取得後浅沼整形勤務 2011年6月こおりやま接骨院開設 2016月柔道整復師専科教員取得、2017年～仙台医健 非常勤講師						
授業の 学習内容	柔道整復学を基に、発生機序を理解し各部位に必要な整復法や固定法を行う。						
到達目標	柔道整復学を活用、応用し模擬的に整復法や固定法などの実技を行うことによって、より臨床に近い知識や技術ができるようになる。						
評価方法と基準	実技50% 筆記50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実技	包帯・テーピングの固定基礎を学ぶ	復習を行う
2	/	実技	足関節外側側副靭帯損傷における徒	復習を行う
3	/	実技	足関節固定 局所副子を学ぶ	復習を行う
4	/	実技	足関節固定 局所副子を学ぶ	復習を行う
5	/	実技	足関節固定 テーピング基礎 バスケ	復習を行う
6	/	実技	足関節 テーピング フィギュアエイト	復習を行う
7	/	実技	膝内側側副靭帯損傷 テーピング固定	復習を行う
8	/	実技	膝軟部組織損傷 徒手検査法まとめ	復習を行う
9	/	実技	肋骨骨折 理論を学ぶ	復習を行う
10	/	実技	肋骨骨折 実技を学ぶ	復習を行う
11	/	実技	実技テスト項目 総復習を行う	復習を行う
12	/	実技	実技テスト①	復習を行う
13	/	実技	実技テスト②	復習を行う
14	/		筆記試験	
15	/		試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学理論編、実技編				

科目名 (英)	基礎柔道整復実技Ⅱ ( )		必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	田村 博
	学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 1 )	開講区分	2学期 曜日・時限
教員の略歴	2000.4～整形外科勤務 2001.10～接骨院勤務 2004.1～独立開業							
授業の 学習内容	柔道整復学理論編・軟部組織損傷(下肢・体幹・頭部顔面部)の講義							
到達目標	1.下肢・体幹・頭部顔面部の各損傷のメカニズムを理解する。 2.下肢・体幹・頭部顔面部の各損傷の発生原因・症状・施術方法を口述できる。 3.下肢・体幹・頭部顔面部の各損傷に対する徒手検査の意義を理解する。							
評価方法と基準	期末定期試験に授業態度を加味する。							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義	軟部組織損傷概説を理解する	解剖学・組織
2	／	講義	軟部組織損傷概説を理解する	解剖学・組織
3	／	講義	腱板断裂を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
4	／	講義	上腕二頭筋長頭腱損傷・ ベネット損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
5	／	講義	SLAP損傷・ 肩峰下インピンジメント損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
6	／	講義	リトルリーガー肩・動揺性肩関節 肩甲上神経絞扼障害・腋窩神経絞扼障害を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
7	／	講義	五十肩・石灰性腱炎・ 変形性肩/肩鎖関節症を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
8	／	講義	肘内側側副靭帯損傷・ 肘外側側副靭帯損傷・野球肘を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
9	／	講義	テニス肘・野球肘を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
10	／	講義	前腕コンパートメント症候群 肘関節後外側不安定症を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
11	／	講義	正中神経障害・橈骨神経麻痺・ 尺骨神経障害を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
12	／	講義	パンナー病・変形性肘関節症・ TFCC損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
13	／	講義	指側副靭帯損傷・ ロッキングフィンガーを理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
14	／	定期試験		
15	／	試験解説		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 柔道整復学・理論編改訂第6版 南江堂				



科目名 (英)	柔道整復実技 I ( )	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	櫻田 裕
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	実技	総時間 (単位)	30 ( 1 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	1981年柔道整復師免許取得、1985年から赤門鍼灸柔整専門学校勤務、2004年から北東北東洋医療専門学校勤務、2007年から仙台医健専門学校勤務し現在に至る。宮城県柔道整復師会会長						
授業の 学習内容	柔道整復認定実技審査(軟部組織損傷の診察と徒手検査)対策を行う						
到達目標	柔道整復学を活用、応用し模擬的に整復法や固定法などの実技を行うことによって、より臨床に近い知識や技術ができるようになる。						
評価方法と基準	90%を認定実技審査の評価方法を基に評価する。10%を筆記試験、授業内の平常点を基に評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	実技	認定実技概説・腱板断裂について理解する	実技試験に向けて各自練習
2	／	実技	腱板断裂の練習を行う	実技試験に向けて各自練習
3	／	実技	腱板断裂の練習を行う	実技試験に向けて各自練習
4	／	実技	上腕二頭筋長頭腱損傷について理解する	実技試験に向けて各自練習
5	／	実技	上腕二頭筋長頭腱損傷の練習を行う	実技試験に向けて各自練習
6	／	実技	上腕二頭筋長頭腱損傷の練習を行う	実技試験に向けて各自練習
7	／	実技	大腿部肉ばなれについて理解する	実技試験に向けて各自練習
8	／	実技	大腿部肉ばなれの練習を行う	実技試験に向けて各自練習
9	／	実技	大腿部肉ばなれの練習を行う	実技試験に向けて各自練習
10	／	実技	膝側副靭帯損傷について理解する	実技試験に向けて各自練習
11	／	実技	膝側副靭帯損傷の練習を行う	実技試験に向けて各自練習
12	／	実技	膝側副靭帯損傷の練習を行う	実技試験に向けて各自練習
13	／	実技	実技試験	
14	／	実技	筆記試験	
15	／	実技	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 柔道整復学理論編、実技編				

科目名 (英)	柔道整復実技Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	菊池こずえ
	( )	授業 形態	実技	総時間 (単位)	30 1	開講区分	
学科・コース	柔道整復科 午前集中コース					曜日・時限	
教員の略歴	平成14年柔道整復師免許取得 平成17年草加西口接骨院勤務 平成17年柔道整復師専科教員修了証取得 平成18年大宮医療専門学院に常勤講師として勤務 平成21年草加西口接骨院・大宮医療専門学院退職、仙台医健専門学校(現仙台医健・スポーツ専門学校)に常勤講師として勤務						
授業の 学習内容	柔道整復認定実技審査(骨折、脱臼の整復固定)対策を行う						
到達目標	柔道整復学を活用、応用し模擬的に整復法や固定法などの実技を行うことによって、より臨床に近い知識や技術ができるようになる。						
評価方法と基準	90%を認定実技審査の評価方法を基に評価する。 10%を授業内の平常点を基に評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実技	認定実技審査について理解する	包帯などの練習を行う
2	/	実技	鎖骨骨折について理解する	実技の復習を行う
3	/	実技	鎖骨骨折の整復法の実技練習を行い理解する	実技の復習を行う
4	/	実技	鎖骨骨折の固定法の実技練習を行い理解する	実技の復習を行う
5	/	実技	鎖骨骨折の整復固定の実技練習を行い理解する	実技の復習を行う
6	/	実技	肩鎖関節脱臼について理解する	実技の復習を行う
7	/	実技	肩鎖関節脱臼の整復法の実技練習を行い理解する	実技の復習を行う
8	/	実技	肩鎖関節脱臼の固定法の実技練習を行い理解する	実技の復習を行う
9	/	実技	肩鎖関節脱臼の整復固定の実技練習を行い理解する	実技の復習を行う
10	/	実技	肩関節脱臼について理解する	実技の復習を行う
11	/	実技	肩鎖節脱臼の整復法の実技練習を行い理解する	実技の復習を行う
12	/	実技	肩関節脱臼の固定法の実技練習を行い理解する	実技の復習を行う
13	/	実技	肩関節脱臼の整復固定の実技練習を行い理解する	実技の復習を行う
14	/	実技	試験	
15	/	実技	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	高齢者及び競技者の生理的特徴の変化	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	高橋英子
	(The elderly, the athlete's physiological characteristics)	授業 形態		総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース						
教員の略歴	東北大学医学部生理学第一講座助教(S56-58)、専門学校教員(H1~)、博士(医学)、薬学博士						
授業の 学習内容	高齢化社会の広がり、そして東京オリンピック・パラリンピックを契機とするスポーツ人口の増加と人々の関心の高まりを考えたとき、生理学の延長として、「高齢者」、「発育・発達と競技者」という視点からの両者の生理学的特徴を理解することは、柔整師として必要とされる知識となりました。この時期に両者を学ぶことは、タイムリーなものといえます。これらを理解することで、柔整師として活動の幅も広がることが期待できます。両者の生理的特徴を系統的に学習します。						
到達目標	①「高齢者や「競技者」の生理学的特徴を説明できる。 ②2年生までに学んだ生理学・一般臨床医学や運動学分野での正常機能との対比として、両者に関連する生理的特徴を理解する。						
評価方法と基準	定期試験(筆記試験)による評価(100%)、60点以上を合格とする						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	教科のオリエンテーション 高齢化の現状	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
2		講義	細胞の老化 (P1)	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
3		講義	生体膜および細胞内小器官の変化 体内水分量の変化 (P1~2)	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
4		講義	高齢者の生理的特徴:加齢による臓器機能の変化 その1 (P2~4)	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
5		講義	高齢者の生理的特徴:加齢による臓器機能の変化 その2 (P5)	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
6		講義	高齢者の生理的特徴:加齢による臓器機能の変化 その3 (P6~7)	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
7		講義	高齢者の生理的特徴:加齢による臓器機能の変化 その4 (P7~8)	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
8		講義	高齢者の生理的特徴:高齢期特有の疾患・障害 その1 身体的フレイル (P9)	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
9		講義	高齢者の生理的特徴:高齢期特有の疾患・障害 その2 認知症 パーキンソン病 (P9~10)	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
10		講義	高齢者の生理的特徴:高齢期特有の疾患・障害 その3 骨粗鬆症 転倒 睡眠障害 (P9~10)	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
11		講義	運動と加齢 その1 歩行機能	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
12		講義	運動と加齢 その2 平衡機能	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
13		講義	運動と加齢 その3 反応時間	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
14		試験	筆記試験	試験に備えて、計画的に勉強すること
15		講義	試験解説	解説を聞いて、しっかり知識の定着を図ること
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】教科書名:生理学(南江堂)改訂第3版第14刷 追加資料 単元ごとに必要に応じて、参考資料を配布(時系列にファイルすること)				

科目名 (英)	高齢者及び競技者の生理的特徴の変化 (The elderly, the athlete's physiological characteristics)	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	高橋英子
		授業 形態		総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース						
教員の略歴	東北大学医学部生理学第一講座助教(S56-58)、専門学校教員(H1~)、博士(医学)、薬学博士						
授業の 学習内容	高齢化社会の広がり、そして東京オリンピック・パラリンピックを契機とするスポーツ人口の増加と人々の関心の高まりを考えたとき、生理学の延長として、「高齢者」、「発育・発達と競技者」という視点からの両者の生理学的特徴を理解することは、柔整師として必要とされる知識となりました。この時期に両者を学ぶことは、タイムリーなものといえます。これらを理解することで、柔整師として活動の幅も広がることが期待できます。両者の生理的特徴を系統的に学習します。						
到達目標	① 小児期から青年期における発育特性を理解する ② 「競技者」の生理学的特徴を理解する ③ 2年生までに学んだ生理学・一般臨床医学や運動学の分野での正常機能との対比として、競技者の生理的特徴を理解する。						
評価方法と基準	定期試験(筆記試験)による評価(100%)、60点以上を合格とする						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	教科のオリエンテーション 小児期から青年期の発育特性	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
2		講義	小児期から青年期の骨・筋肉系の発育と運動	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
3		講義	小児期から青年期の骨・筋肉系の発育と運動	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
4		講義	小児期から青年期の呼吸循環系機能と運動	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
5		講義	発育期の運動不足・過運動の影響	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
6		講義	発育期の運動不足・過運動の影響	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
7		講義	運動の習熟	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
8		講義	運動の習熟	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
9		講義	競技者の生理的特徴:スポーツ&トレーニングによる適応	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
10		講義	競技者の神経機構の特性	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
11		講義	姿勢調節	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
12		講義	眼球運動と姿勢制御	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
13		講義	競技者の生理学的特徴・変化のまとめ	その日に学習する予定の部分の教科書を事前に読んでおくこと
14		試験	筆記試験	試験に備えて、計画的に勉強すること
15		講義	試験解説	解説を聞いて、しっかり知識の定着を図ること
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】教科書名:生理学(南江堂)改訂第3版第14刷 追加資料 単元ごとに必要に応じて、参考資料を配布(時系列にファイルすること)				

科目名 (英)	整形外科学 ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	吉田 新一郎
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2009年に医師免許を取得、その後2年間の初期研修の後、8年間整形外科医として各病院に勤務。2016年から当校の整形外科学講義を担当。						
授業の 学習内容	国家試験に合格し、柔道整復師として実臨床に臨む上で、整形外科学は必須の学習項目である。超高齢社会となった本邦においては、高齢者の運動器疾患が増加しており、運動器疾患のウエイトは大きなものである。本講義を受ける学生には、社会貢献ができる柔道整復師になることを期待している。本講義では、国家試験対策はもちろん、実臨床で役立つ知識を身に着けることを目標とし、現場の生きた経験に基づく講義を行う予定である。						
到達目標	①本邦における運動器疾患に対する柔道整復師業務の重要性を理解する。②柔道整復師国家試験に合格しうる十分な知識を習得する。③実臨床で役立つ知識や考え方を身に着ける。④運動器に対する学問的興味を深め、学問の発展の重要性と、それに寄与する研究活動の重要性を理解する。						
評価方法と基準	定期試験(前期、後期併せて)60%以上で合格。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月5日	講義	整形外科総論、検査治療法について学習する	講義プリントの復習をする
2	4月12日	講義	骨折総論・上肢骨折、体幹骨折・下肢骨折について学習する	講義プリントの復習をする
3	4月19日	講義	骨軟部腫瘍、神経筋・感染症について学習する	講義プリントの復習をする
4	4月26日	講義	変形性関節症・リウマチ類縁疾患について学習する	講義プリントの復習をする
5	5月10日	講義	先天性・骨系統・代謝性疾患について学習する	講義プリントの復習をする
6	5月17日	講義	試験対策を行う	講義プリントの復習をする
7	5月24日	講義	試験解説、脊髄損傷(頸椎・頸髄)について学習する	講義プリントの復習をする
8	5月31日	講義	胸腰椎・末梢神経、肩・肘関節疾患について学習する	講義プリントの復習をする
9	6月7日	講義	手・股関節疾患、膝関節疾患について学習する	講義プリントの復習をする
10	6月21日	講義	足関節・足部疾患、骨端症について学習する・試験対策を行う	講義プリントの復習をする
11	6月28日	講義	国家試験対策を行う	講義プリントの復習をする
12	7月5日	講義	国家試験対策を行う	講義プリントの復習をする
13	7月12日	講義	国家試験対策を行う	講義プリントの復習をする
14	7月19日	講義	国家試験対策を行う	講義プリントの復習をする
15	7月26日	講義	国家試験対策を行う	講義プリントの復習をする
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
松ト他編整形外科学改訂第3版とテキストとする 必要があればその都度資料配布を配布する 標準整形外科学、ネッター解剖学アトラス				

科目名 (英)	整形外科学	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	吉田 新一郎
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	
教員の略歴	2009年に医師免許を取得、その後2年間の初期研修の後、8年間整形外科医として各病院に勤務。2016年から当校の整形外科学講義を担当。						
授業の 学習内容	南江堂、松下他編 整形外科学 改訂第3版を軸にしてこれに講師が必要と考える事項・解説または訂正を附加する						
到達目標	1.整形外科学の対象を知る 2.上記の診察に必要な機能解剖学的基礎を知る 3.整形外科学的疾患の診断・診察に至る思慮過程を理解する						
評価方法と基準	定期試験(前期、後期併せて)60%以上で合格。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	神経麻痺疾患を学ぶ	講義プリントの復習をする
2	/	講義	神経疾患を学ぶ	講義プリントの復習をする
3	/	講義	身体部位別各論を学ぶ	講義プリントの復習をする
4	/	講義	身体部位別各論を学ぶ	講義プリントの復習をする
5	/	講義	身体部位別各論を学ぶ	講義プリントの復習をする
6	/	講義	身体部位別各論を学ぶ	講義プリントの復習をする
7	/	講義	身体部位別各論を学ぶ	講義プリントの復習をする
8	/	講義	身体部位別各論を学ぶ	講義プリントの復習をする
9	/	講義	身体部位別各論を学ぶ	講義プリントの復習をする
10	/	講義	身体部位別各論を学ぶ	講義プリントの復習をする
11	/	講義	身体部位別各論を学ぶ	講義プリントの復習をする
12	/	講義	身体部位別各論を学ぶ	講義プリントの復習をする
13	/	講義	身体部位別各論を学ぶ	講義プリントの復習をする
14	/	試験	定期試験	
15	/	講義	試験解説	講義プリントの復習をする
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
松ト他編整形外科学改訂第3版とテキストとする 必要があればその都度資料配布を配布する 標準整形外科学、ネッター解剖学アトラス				

科目名 (英)	リハビリテーション医学 ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	和泉 博之
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	1976年～東北大学歯学部(生理学、口腔機能解析学)、東北大学医療短期大学看護学部(生理学)、宮城学院女子大学家政学部(生理学)、2003年～北海道医療大学歯学部(生理学)、北海道医療大学リハビリテーション学部						
授業の 学習内容	医学はもともと病気の治療を目的として進歩・発達してきた。その後さらに予防医学の重要性が認識され一定の成果がもたらされてきた。しかし近年急性感染症疾患が減少した反面、慢性疾患の増加、高齢者人口の増加などで、治癒しても大きな障害が残る者の増加、不可逆的疾患の増加がみられる。そのためこのような人々への対応が必要になってきた。学生には正常な人体の構造・機能を理解してもらい、そのうえで障害を持った人々の社会参加を促進してQOL(人生の質)の向上を目指すためのリハビリテーション医学の重要性を講義したい。解剖学、生理学を基本的に理解し障害が起きたときに社会参加を促進するにはどのようにすべきかを理解してもらいたい。						
到達目標	患者の障害をできるだけ軽減し、さらに残された患者の能力を最大限引き出し、それにより可能な限り人間として望ましい生活(QOLの向上)ができるようにすることがリハビリテーション医学の最大の教育目標である。障害を受ける可能性がある疾患としては脳血管障害(脳卒中)、頭部外傷、脊髄損傷、関節リウマチを含む骨関節疾患、神経疾患、脳性まひ、四肢切断、慢性呼吸器疾患、心筋梗塞後などがある。これらの病態生理の機序を理解し効率的な障害の軽減・治療をおこないQOL向上を目指すことを目標にする。						
評価方法と基準	定期試験筆記90%、出席数10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	リハビリテーションの概念を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
2	/	講義	リハビリテーションを理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
3	/	講義	運動学と機能解剖を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
4	/	講義	運動学と機能解剖を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
5	/	講義	障害・治療学を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
6	/	講義	障害・治療学を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
7	/	講義	評価と診断を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
8	/	講義	関節可動域測定法 徒手筋力テスト を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
9	/	講義	中枢性運動障害概要を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
10	/	講義	小児発達概要を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
11	/	講義	協調性テストを理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
12	/	講義	失認・失行を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
13	/	講義	日常生活動作・診断法を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
14	/	試験	定期試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 リハビリテーション医学 改訂第3版 プリント				

科目名 (英)	リハビリテーション医学 ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	和泉 博之
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	1976年～東北大学歯学部(生理学、口腔機能解析学)、東北大学医療短期大学看護学部(生理学)、宮城学院女子大学家政学部(生理学)、2003年～北海道医療大学歯学部(生理学)、北海道医療大学リハビリテーション学部						
授業の 学習内容	医学はもともと病気の治療を目的として進歩・発達してきた。その後さらに予防医学の重要性が認識され一定の成果がもたらされてきた。しかし近年急性感染症疾患が減少した反面、慢性疾患の増加、高齢者人口の増加などで、治療しても大きな障害が残る者の増加、不可逆的疾患の増加がみられる。そのためこのような人々への対応が必要になってきた。学生には正常な人体の構造・機能を理解してもらい、そのうえで障害を持った人々の社会参加を促進してQOL(人生の質)の向上を目指すためのリハビリテーション医学の重要性を講義したい。解剖学、生理学を基本的に理解し障害が起きたときに社会参加を促進するにはどのようにすべきかを理解してもらいたい。						
到達目標	患者の障害をできるだけ軽減し、さらに残された患者の能力を最大限引き出し、それにより可能な限り人間として望ましい生活(QOLの向上)ができるようにすることがリハビリテーション医学の最大の教育目標である。障害を受ける可能性がある疾患としては脳血管障害(脳卒中)、頭部外傷、脊髄損傷、関節リウマチを含む骨関節疾患、神経疾患、脳性まひ、四肢切断、慢性呼吸器疾患、心筋梗塞後などがある。これらの病態生理の機序を理解し効率的な障害の軽減・治療をおこないQOL向上を目指すことを目標にする。						
評価方法と基準	定期試験筆記90%、出席数10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	神経麻痺疾患を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
2	/	講義	神経疾患を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
3	/	講義	身体部位別各論を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
4	/	講義	身体部位別各論を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
5	/	講義	身体部位別各論を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
6	/	講義	身体部位別各論を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
7	/	講義	身体部位別各論を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
8	/	講義	身体部位別各論を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
9	/	講義	身体部位別各論を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
10	/	講義	身体部位別各論を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
11	/	講義	身体部位別各論を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
12	/	講義	身体部位別各論を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
13	/	講義	身体部位別各論を理解する	①事前に配布するプリントを講義前に読んでおく。 ②授業計画に沿った国家試験問題を解答して、国家試験の程度を理解しておく
14	/	試験	定期試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
リハビリテーション医学 改訂第3版 プリント				



科目名 (英)	柔道整復術の適応	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	早坂 健
	( )	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース						
教員の略歴	2002年柔道整復師免許取得後浅沼整形勤務 2011年6月こおりやま接骨院開設 2016月柔道整復師専科教員取得 、2017年～仙台医健 非常勤講師						
授業の 学習内容	柔道整復術の適応範囲や知識、技術を総合的に説明できる。						
到達目標	柔道整復師として業を行う上で必要な知識と技術を理解する。						
評価方法と基準	定期試験筆記100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義	柔道整復術の適否の考察	復習を行う
2	／	講義	内臓疾患の投影を疑う疼痛	復習を行う
3	／	講義	腰痛を伴う疾患	復習を行う
4	／	講義	化膿性の炎症	復習を行う
5	／	講義	軟部組織の圧迫損傷	復習を行う
6	／	講義	血流障害を伴う損傷	復習を行う
7	／	講義	末梢神経損傷を伴う損傷	復習を行う
8	／	講義	末梢神経損傷を伴う損傷	復習を行う
9	／	講義	脱臼骨折	復習を行う
10	／	講義	脱臼骨折	復習を行う
11	／	講義	脱臼骨折	復習を行う
12	／	講義	今学期のまとめ	復習を行う
13	／	講義	試験対策	復習を行う
14	／	試験	試験	
15	／	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名 (英)	柔道整復術の適応 ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	早坂 健
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2002年柔道整復師免許取得後浅沼整形勤務 2011年6月こおりやま接骨院開設 2016月柔道整復師専科教員取得、2017年～仙台医健 非常勤講師						
授業の 学習内容	柔道整復術の適応範囲や知識、技術を総合的に説明できる。						
到達目標	柔道整復師として業を行う上で必要な知識と技術を理解する。						
評価方法と基準	定期試験筆記100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	前学期の復習	復習を行う
2	/	講義	外出欠を伴う損傷	復習を行う
3	/	講義	病的骨折および脱臼	復習を行う
4	/	講義	意識障害を伴う損傷	復習を行う
5	/	講義	脊髄症状が疑われる損傷	復習を行う
6	/	講義	呼吸運動障害を伴う損傷	復習を行う
7	/	講義	内臓損傷の合併が疑われる損傷	復習を行う
8	/	講義	内臓損傷の合併が疑われる損傷	復習を行う
9	/	講義	内臓損傷の合併が疑われる損傷	復習を行う
10	/	講義	高エネルギー外傷	復習を行う
11	/	講義	高エネルギー外傷	復習を行う
12	/	講義	1セメまとめ	復習を行う
13	/	講義	試験対策	復習を行う
14	/	試験	試験	
15	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	関係法規 ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	井内 正益
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 1 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	H27柔道整復師国家資格取得、H30柔道整復師専科教員免許取得、H31～仙台医健スポーツ&こども専門学校柔道整復科勤務						
授業の 学習内容	柔道整復師として業務を行う為に法律を理解する。						
到達目標	柔道整復師の業務に必要な法の基礎を学ぶ。柔道整復師の業を理解する。						
評価方法と基準	定期試験(筆記試験)による評価(100%)、60点以上を合格とする						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1	/	講義	序論 ・法の意義・法の体系・柔道整復師および柔道整復に関する法規・柔道整復師と患者の権利を学ぶ		復習を行う		
2	/	講義	総則 ・柔道整復師法の目的・定義を学ぶ		復習を行う		
3	/	講義	免許を学ぶ ・柔道整復師免許・免許を受けるための要件・免許申請・柔道整復師名簿		復習を行う		
4	/	講義	免許を学ぶ ・免許の取消等・柔道整復師免許証および柔道整復師免許証明書・免許証の書換え交付、再交付・免許証又は免許証明書の返納および		復習を行う		
5	/	講義	柔道整復師国家試験 ・試験の実施・合格証書と合格証明書を学ぶ		復習を行う		
6	/	講義	業務 ・業務の停止・業務範囲・秘密を守る義務・都道府県知事の指示・緊急時における厚生労働大臣の事務執行を学ぶ		復習を行う		
7	/	講義	施術所 ・施術所の届出・施術所の構造設備等・施術所に対する監督を学ぶ		復習を行う		
8	/	講義	雑則 ・広告・経過措置の制定を学ぶ		復習を行う		
9	/	講義	罰則 ・刑法法定主義・柔道整復師法の罰則規定・両罰規定を学ぶ		復習を行う		
10	/	講義	指定登録機関及び指定試験機関 ・指定登録機関・指定試験機関を学ぶ		復習を行う		
11	/	講義	医療法 ・医療法の目的・病院の定義・医療機関の名称制限を学ぶ		復習を行う		
12	/	講義	医療法 ・広告の制限・医療の安全管理・医療機関の開設、休止の要件医師法・医師法の免許と業務を学ぶ		復習を行う		
13	/	講義	保健師助産師看護師法 診療放射線技師法 理学療法士及び作業療法士法 薬剤師法 個人情報保護法を学ぶ		復習を行う		
14	/		学期末試験				
15	/	講義	解説				
準備学習 時間外学習							
【使用教科書・教材・参考書】							
関係法規 医歯薬出版							

科目名 (英)	柔道 ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	川村一之
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2006年柔道整復師免許取得、2006年～2014年まで福岡医健付属慶生整骨院勤務 2011年柔道整復師専科教員免許取得						
授業の 学習内容	実技を主体として正しい礼法、受身、形、技を習得させる。						
到達目標	柔道整復師にとって柔道は根幹となるもの。その精神を学び健全な心と体を保ちしっかりとした礼儀を身につけさせる。						
評価方法と基準	実技試験:100%評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実技	1・2年時の復習(礼法、受身、基礎練習)を行う	講義内の内容を各自復習させる
2	/	実技	投の形(足技、送足払)乱取を行う	講義内の内容を各自復習させる
3	/	実技	投の形(足技、送足払)乱取を行う	講義内の内容を各自復習させる
4	/	実技	投の形(足技、支釣込足))を行う	講義内の内容を各自復習させる
5	/	実技	投の形(足技、支釣込足))を行う	講義内の内容を各自復習させる
6	/	実技	投の形(足技、内股))を行う	講義内の内容を各自復習させる
7	/	実技	投の形(足技、内股))を行う	講義内の内容を各自復習させる
8	/	実技	投の形(足技、内股))を行う	講義内の内容を各自復習させる
9	/	実技	投の形(足技の復習)を行う	講義内の内容を各自復習させる
10	/	実技	投の形(足技の復習)を行う	講義内の内容を各自復習させる
11	/	実技	投の形を総合的に行う	講義内の内容を各自復習させる
12	/	実技	投の形を総合的に行う	講義内の内容を各自復習させる
13	/	実技	試験説明を行う	講義内の内容を各自復習させる
14	/	実技	期末試験	
15	/	実技	試験解説を行う	講義内の内容を各自復習させる
16	/			
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 講道館 柔道 投の形のDVD				

科目名 (英)	柔道 ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	川村 一之
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2006年柔道整復師免許取得、2006年～2014年まで福岡医健付属慶生整骨院勤務 2011年柔道整復師専科教員免許取得						
授業の 学習内容	実技を主体として正しい礼法、受身、形、技を習得させる。						
到達目標	柔道整復師にとって柔道は根幹となるもの。その精神を学び健全な心と体を保ちしっかりとした礼儀を身につけさせる。						
評価方法と基準	実技試験:100%評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実技	一学期の復習を行う	講義内の内容を各自復習させる
2	/	実技	投の形、柔の形 総合 乱取を行う	講義内の内容を各自復習させる
3	/	実技	投の形、柔の形 総合 乱取を行う	講義内の内容を各自復習させる
4	/	実技	投の形、柔の形 総合 乱取を行う	講義内の内容を各自復習させる
5	/	実技	投の形、柔の形 総合 乱取を行う	講義内の内容を各自復習させる
6	/	実技	投の形、柔の形 総合 乱取を行う	講義内の内容を各自復習させる
7	/	実技	投の形、柔の形 総合 乱取を行う	講義内の内容を各自復習させる
8	/	実技	投の形、柔の形 総合 乱取を行う	講義内の内容を各自復習させる
9	/	実技	認定実技試験対策(礼法、受身、乱取、形)を行う	講義内の内容を各自復習させる
10	/	実技	認定実技試験対策(礼法、受身、乱取、形)を行う	講義内の内容を各自復習させる
11	/	実技	認定実技試験対策(礼法、受身、乱取、形)を行う	講義内の内容を各自復習させる
12	/	実技	認定実技試験対策(礼法、受身、乱取、形)を行う	講義内の内容を各自復習させる
13	/	実技	認定実技試験対策(礼法、受身、乱取、形)を行う	講義内の内容を各自復習させる
14	/	実技	期末試験	
15	/	実技	試験解説を行う	講義内の内容を各自復習させる
16	/			
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
講道館 柔道 投の形のDVD				

科目名 (英)	社会保険制度 ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	井内 正益
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	H27柔道整復師国家資格取得、H30柔道整復師専科教員免許取得、H31～仙台医健スポーツ&こども専門学校柔道整復科勤務						
授業の 学習内容	柔道整復師として必要な社会保障制度を理解する。						
到達目標	柔道整復師として業を行う事を想定し社会保障制度を知る。						
評価方法と基準	100%筆記試験						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	社会保障とは	実技の復習を行う
2	/	講義	社会保険制度について	実技の復習を行う
3	/	講義	医療保険制度とは	実技の復習を行う
4	/	講義	保険診療の概論	実技の復習を行う
5	/	講義	医療保険財政の現状と課題	実技の復習を行う
6	/	講義	診療報酬制度について	実技の復習を行う
7	/	講義	社会保険制度のまとめ	実技の復習を行う
8	/	講義	療養費制度の概要について	実技の復習を行う
9	/	講義	療養費とは	実技の復習を行う
10	/	講義	柔道整復療養費	実技の復習を行う
11	/	講義	療養費の算定	実技の復習を行う
12	/	講義	療養費請求のケーススタディ	実技の復習を行う
13	/	講義	まとめ	実技の復習を行う
14	/	試験	試験	
15	/	講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学理論編、実技編				





科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅱ ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	門間 鳳梧
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2017.4柔道整復師免許取得 2022.10柔道整復師専科教員免許取得 2017.4～接骨院勤務 2018.4～本校勤務、仙台医健付属整骨院勤務						
授業の 学習内容	柔道整復師として専門的な知識と、解剖学や生理学などの知識を含め総合的な知識理解を目標とし、また国家試験に合格するために必要な知識も理解する。						
到達目標	高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に説明できる。						
評価方法と基準	80%筆記試験 20%授業内の小テスト						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	筋収縮について理解する	復習を行う
2	/	講義	心周期について理解する	復習を行う
3	/	講義	骨格筋、心筋、平滑筋について理解する	復習を行う
4	/	講義	肺循環と体循環について理解する	復習を行う
5	/	講義	血圧調整に関わるホルモンについて理解する	復習を行う
6	/	講義	重症筋無力症について理解する	復習を行う
7	/	講義	高温環境下と低温環境下について理解する	復習を行う
8	/	講義	基礎代謝について理解する	復習を行う
9	/	講義	柔整総論骨折について理解する	復習を行う
10	/	講義	柔整総論脱臼について理解する	復習を行う
11	/	講義	柔整総論筋損傷について理解する	復習を行う
12	/	講義	柔整総論腱損傷について理解する	復習を行う
13	/	講義	1学期の復習を行う	復習を行う
14	/	試験	試験	
15	/	講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
解剖学、生理学、柔道整復学理論編				

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅱ ( )		必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	門間 鳳楠
	学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2017.4柔道整復師免許取得 2022.10柔道整復師専科教員免許取得 2017.4～接骨院勤務 2018.4～本校勤務、仙台医健付属整骨院勤務							
授業の 学習内容	柔道整復師として専門的な知識と、解剖学や生理学などの知識を含め総合的な知識理解を目標とし、また国家試験に合格するために必要な知識も理解する。							
到達目標	高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に説明できる。							
評価方法と基準	80%筆記試験 20%授業内の小テスト							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	、下顎骨、カテコールアミンについて理	復習を行う
2	/	講義	細胞腫、甲状腺ホルモンについて理解	復習を行う
3	/	講義	ルシトニン、ビタミンDについて理解す	復習を行う
4	/	講義	栄養素の吸収について理解する	復習を行う
5	/	講義	パーキンソン病について理解する	復習を行う
6	/	講義	関節リウマチについて理解する	復習を行う
7	/	講義	心管ホルモン、胃液分泌について理解	復習を行う
8	/	講義	ホルモン総論、各論について理解する	復習を行う
9	/	講義	柔整総論靭帯損傷について理解する	復習を行う
10	/	講義	整総論末梢神経損傷について理解す	復習を行う
11	/	講義	柔整総論診察について理解する	復習を行う
12	/	講義	柔整総論整復法について理解する	復習を行う
13	/	講義	柔整総論固定法について理解する	復習を行う
14	/	試験	試験	
15	/	講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
解剖学、生理学、柔道整復学理論編				

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅱ ( )		必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	門間 鳳楠
	学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2017.4柔道整復師免許取得 2022.10柔道整復師専科教員免許取得 2017.4～接骨院勤務 2018.4～本校勤務、仙台医健付属整骨院勤務							
授業の 学習内容	柔道整復師として専門的な知識と、解剖学や生理学などの知識を含め総合的な知識理解を目標とし、また国家試験に合格するために必要な知識も理解する。							
到達目標	高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に説明できる。							
評価方法と基準	80%筆記試験 20%授業内の小テスト							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	柔道整復学の総論の復習を行う。	復習を行う
2	/	講義	柔道整復学の総論の復習を行う。	復習を行う
3	/	講義	柔道整復学の総論の復習を行う。	復習を行う
4	/	講義	柔道整復学の各論の復習を行う。	復習を行う
5	/	講義	柔道整復学の各論の復習を行う。	復習を行う
6	/	講義	柔道整復学の各論の復習を行う。	復習を行う
7	/	講義	柔道整復学の各論の復習を行う。	復習を行う
8	/	講義	柔道整復学の各論の復習を行う。	復習を行う
9	/	講義	柔道整復学の各論の復習を行う。	復習を行う
10	/	講義	柔道整復学を総合的に復習を行う。	復習を行う
11	/	講義	柔道整復学を総合的に復習を行う。	復習を行う
12	/	講義	柔道整復学を総合的に復習を行う。	復習を行う
13	/	講義	柔道整復学を総合的に復習を行う。	復習を行う
14	/	試験	試験	
15	/	講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
解剖学、生理学、柔道整復学理論編				

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅴ ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	井内 正益
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	H27柔道整復師国家資格取得、H30柔道整復師専科教員免許取得、H31～仙台医健スポーツ&こども専門学校柔道整復科勤務						
授業の 学習内容	柔道整復師として専門的な知識と、解剖学や生理学などの知識を含め総合的な知識理解を目標とし、また国家試験に合格するために必要な知識も理解する。						
到達目標	高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に説明できる。						
評価方法と基準	80%筆記試験 20%授業内の小テスト						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	頭部顔面の解剖と機能を理解する	復習を行う
2	/	講義	頭部、顔面部の骨折を理解する	復習を行う
3	/	講義	顎関節脱臼を理解する	復習を行う
4	/	講義	頭部、顔面部の軟部組織損傷を理解する	復習を行う
5	/	講義	頸部の解剖と機能を理解する	復習を行う
6	/	講義	頸椎骨折を理解する	復習を行う
7	/	講義	頸椎脱臼を理解する	復習を行う
8	/	講義	頸椎の軟部組織損傷を理解する	復習を行う
9	/	講義	胸部の骨折を理解する	復習を行う
10	/	講義	胸椎骨折を理解する	復習を行う
11	/	講義	胸椎脱臼を理解する	復習を行う
12	/	講義	腰椎骨折を理解する	復習を行う
13	/	講義	胸椎脱臼を理解する	復習を行う
14	/	試験	試験	
15	/	講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
解剖学、生理学、柔道整復学理論編				

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅴ ( )		必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	井内 正益
	学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	H27柔道整復師国家資格取得、H30柔道整復師専科教員免許取得、H31～仙台医健スポーツ&こども専門学校柔道整復科勤務							
授業の 学習内容	柔道整復師として専門的な知識と、解剖学や生理学などの知識を含め総合的な知識理解を目標とし、また国家試験に合格するために必要な知識も理解する。							
到達目標	高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に説明できる。							
評価方法と基準	80%筆記試験 20%授業内の小テスト							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義	鎖骨の解剖と機能を理解する	復習を行う
2	／	講義	鎖骨骨折を理解する	復習を行う
3	／	講義	鎖骨脱臼を理解する	復習を行う
4	／	講義	肩の解剖と機能を理解する	復習を行う
5	／	講義	肩甲骨骨折を理解する	復習を行う
6	／	講義	上腕骨近位端部骨折を理解する	復習を行う
7	／	講義	肩関節脱臼を理解する	復習を行う
8	／	講義	肩関節部の軟簿組織損傷を理解する	復習を行う
9	／	講義	肘関節部の解剖と機能を理解する	復習を行う
10	／	講義	上腕骨遠位端骨折を理解する	復習を行う
11	／	講義	肘関節の脱臼を理解する	復習を行う
12	／	講義	前腕部の解剖と機能を理解する	復習を行う
13	／	講義	前腕骨骨幹部骨折を理解する	復習を行う
14	／	試験	試験	
15	／	講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 解剖学、生理学、柔道整復学理論編				

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅴ ( )		必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	井内 正益
	学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	H27柔道整復師国家資格取得、H30柔道整復師専科教員免許取得、H31～仙台医健スポーツ&こども専門学校柔道整復科勤務							
授業の 学習内容	柔道整復師として専門的な知識と、解剖学や生理学などの知識を含め総合的な知識理解を目標とし、また国家試験に合格するために必要な知識も理解する。							
到達目標	高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に説明できる。							
評価方法と基準	80%筆記試験 20%授業内の小テスト							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義	前腕遠位端部骨折を理解する	復習を行う
2	／	講義	手根骨部の骨折を理解する	復習を行う
3	／	講義	手関節部の脱臼を理解する	復習を行う
4	／	講義	手関節部の軟部組織損傷を理解する	復習を行う
5	／	講義	中手骨骨折を理解する	復習を行う
6	／	講義	手根中手関節脱臼を理解する	復習を行う
7	／	講義	指骨骨折を理解する	復習を行う
8	／	講義	骨盤部の骨折を理解する	復習を行う
9	／	講義	大腿骨頸部骨折を理解する	復習を行う
10	／	講義	大腿骨骨幹部骨折を理解する	復習を行う
11	／	講義	膝蓋骨脱臼について理解する	復習を行う
12	／	講義	下腿骨骨折について理解する	復習を行う
13	／	講義	足部の骨折、脱臼について理解する	復習を行う
14	／	試験	試験	
15	／	講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 解剖学、生理学、柔道整復学理論編				

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅳ ( )		必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	川村 一之
	学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2006年柔道整復師免許取得、2006年～2014年まで福岡医健付属慶生整骨院勤務 2011年柔道整復師専科教員免許取得							
授業の 学習内容	柔道整復学理論編を中心により臨床的な講義を行う							
到達目標	高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に学び理解する。							
評価方法と基準	筆記100%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
2		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
3		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
4		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
5		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
6		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
7		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
8		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
9		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
10		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
11		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
12		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
13		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
14		試験	定期試験	
15		講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学・理論編改訂第5版 南江堂				

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅳ ( )		必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	川村 一之
	学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2006年柔道整復師免許取得、2006年～2014年まで福岡医健付属慶生整骨院勤務 2011年柔道整復師専科教員免許取得							
授業の 学習内容	柔道整復学理論編を中心により臨床的な講義を行う							
到達目標	高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に学び理解する。							
評価方法と基準	筆記100%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
2		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
3		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
4		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
5		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
6		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
7		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
8		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
9		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
10		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
11		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
12		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
13		講義	総合的な復習、問題を解く	復習を行う
14		試験	定期試験	
15		講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学・理論編改訂第5版 南江堂				



科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅴ		必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	川村 一之
	学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 (3)	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	2006年柔道整復師免許取得、2006年～2014年まで福岡医健付属慶生整骨院勤務 2011年柔道整復師専科教員免許取得							
授業の 学習内容	柔道整復学理論編を中心により臨床的な講義を行う							
到達目標	高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に学び理解する。							
評価方法と基準	筆記100%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	柔整の総合的な復習、問題を解く	復習を行う
2		講義	柔整の総合的な復習、問題を解く	復習を行う
3		講義	柔整の総合的な復習、問題を解く	復習を行う
4		講義	柔整の総合的な復習、問題を解く	復習を行う
5		講義	柔整の総合的な復習、問題を解く	復習を行う
6		講義	柔整の総合的な復習、問題を解く	復習を行う
7		講義	柔整の総合的な復習、問題を解く	復習を行う
8		講義	柔整の総合的な復習、問題を解く	復習を行う
9		講義	柔整の総合的な復習、問題を解く	復習を行う
10		講義	柔整の総合的な復習、問題を解く	復習を行う
11		講義	柔整の総合的な復習、問題を解く	復習を行う
12		講義	柔整の総合的な復習、問題を解く	復習を行う
13		講義	柔整の総合的な復習、問題を解く	復習を行う
14		試験	定期試験	
15		講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学・理論編改訂第5版 南江堂				

科目名 (英)	柔道整復術適応の臨床的判定 ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	井内 正益
	学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	H27柔道整復師国家資格取得、 H30柔道整復師専科教員免許取得、 H31～仙台医健スポーツ&こども専門学校柔道整復科勤務						
授業の 学習内容	高度な知識や技術と習得するとともに柔道整復師として臨床的な判断能力を説明できる。						
到達目標	柔道整復師として業を行う上で必要な知識と技術を理解し、臨床的な判断力を身につける。						
評価方法と基準	定期試験筆記100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義	施術の反応判断の必要性について	復習を行う
2	／	講義	適応判断について	復習を行う
3	／	講義	柔道整復術非適応が疑われる症状	復習を行う
4	／	講義	損傷に類似した症状を示す疾患	復習を行う
5	／	講義	血流障害を伴う損傷	復習を行う
6	／	講義	末梢神経損傷を伴う損傷	復習を行う
7	／	講義	脱臼骨折	復習を行う
8	／	講義	外出血を伴う損傷	復習を行う
9	／	講義	病的骨折および脱臼	復習を行う
10	／	講義	意識障害を伴う損傷	復習を行う
11	／	講義	脊髄症状のある損傷	復習を行う
12	／	講義	復習	復習を行う
13	／	講義	まとめ	復習を行う
14	／	試験	試験	
15	／	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名 (英)	柔道整復術適応の臨床的判定 ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	井内 正益
	学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	H27柔道整復師国家資格取得、 H30柔道整復師専科教員免許取得、 H31～仙台医健スポーツ&こども専門学校柔道整復科勤務						
授業の 学習内容	高度な知識や技術と習得するとともに柔道整復師として臨床的な判断能力を説明できる。						
到達目標	柔道整復師として業を行う上で必要な知識と技術を理解し、臨床的な判断力を身につける。						
評価方法と基準	定期試験筆記100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義	前期の復習	復習を行う
2	／	講義	呼吸運動障害を伴う損傷	復習を行う
3	／	講義	内臓損傷の合併が疑われる損傷	復習を行う
4	／	講義	高エネルギー外傷	復習を行う
5	／	講義	医用画像の理解について	復習を行う
6	／	講義	医用画像の理解について	復習を行う
7	／	講義	医用画像の理解について	復習を行う
8	／	講義	医用画像の理解について	復習を行う
9	／	講義	医用画像の理解について	復習を行う
10	／	講義	医用画像の理解について	復習を行う
11	／	講義	医用画像の理解について	復習を行う
12	／	講義	医用画像の理解について	復習を行う
13	／	講義	まとめ	復習を行う
14	／	試験	試験	
15	／	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名 (英)	柔道整復実技 I		必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	櫻田 裕
	( )		授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース							
教員の略歴	1981年柔道整復師免許取得、1985年から赤門鍼灸柔整専門学校勤務、2004年から北東北東洋医療専門学校勤務、2007年から仙台医健専門学校勤務 宮城県柔道整復師会会長							
授業の 学習内容	柔道整復認定実技審査(軟部組織損傷の診察と徒手検査)対策を行う							
到達目標	柔道整復学を活用、応用し模擬的に整復法や固定法などの実技を行うことによって、より臨床に近い知識や技術ができるようになる。							
評価方法と基準	90%を認定実技審査の評価方法を基に評価する。 10%を筆記試験、授業内の平常点を基に評価する。							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	実技	2年生時の復習・練習を行う	実技試験に向けて各自練習
2	／	実技	膝十字靭帯損傷の概論を学ぶ	実技試験に向けて各自練習
3	／	実技	膝十字靭帯損傷の検査、テスト法を学ぶ	実技試験に向けて各自練習
4	／	実技	膝半月板損傷の概論を学ぶ	実技試験に向けて各自練習
5	／	実技	膝半月板損傷の検査、テスト法を学ぶ	実技試験に向けて各自練習
6	／	実技	下腿三頭筋肉ばなれの概論を学ぶ	実技試験に向けて各自練習
7	／	実技	下腿三頭筋肉ばなれの検査、テスト法を学ぶ	実技試験に向けて各自練習
8	／	実技	足関節外側靭帯損傷の概論を学ぶ	実技試験に向けて各自練習
9	／	実技	足関節外側靭帯損傷の検査、テスト法を学ぶ	実技試験に向けて各自練習
10	／	実技	肘内障の概論を学ぶ	実技試験に向けて各自練習
11	／	実技	肘内障の整復法を学ぶ	実技試験に向けて各自練習
12	／	実技	膝十字靭帯、膝半月板損傷のテスト法の復習・練習を行う	実技試験に向けて各自練習
13	／	実技	下腿三頭筋肉ばなれ、足関節外側副靭帯のテスト法の復習・練習を行う	実技試験に向けて各自練習
14	／	実技	試験	
15	／	実技	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学理論編、実技編				

科目名 (英)	柔道整復実技 I ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	櫻田 裕
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	実技	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	1981年柔道整復師免許取得、1985年から赤門鍼灸柔整専門学校勤務、2004年から北東北東洋医療専門学校勤務、2007年から 仙台医健専門学校勤務 宮城県柔道整復師会会長						
授業の 学習内容	柔道整復認定実技審査(軟部組織損傷の診察と徒手検査)対策を行う						
到達目標	柔道整復学を活用、応用し模擬的に整復法や固定法などの実技を行うことによって、より臨床に近い知識や技術 ができるようになる。						
評価方法と基準	90%を認定実技審査の評価方法を基に評価する。 10%を筆記試験、授業内の平常点を基に評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実技	認定実技の進行方法を理解し学ぶ	実技試験に向けて各自練習
2	/	実技	腱板断裂の検査、テスト法を理解する	実技試験に向けて各自練習
3	/	実技	上腕二頭筋長頭腱損傷の検査、テスト法を理解する	実技試験に向けて各自練習
4	/	実技	大腿部肉ばなれの検査、テスト法を理解する	実技試験に向けて各自練習
5	/	実技	膝側副韧带損傷の検査、テスト法を理解する	実技試験に向けて各自練習
6	/	実技	膝十字韧带損傷の検査、テスト法を理解する	実技試験に向けて各自練習
7	/	実技	膝半月板損傷の検査、テスト法を理解する	実技試験に向けて各自練習
8	/	実技	下腿三頭筋肉ばなれの検査、テスト法を理解する	実技試験に向けて各自練習
9	/	実技	足関節外側韧带損傷の検査、テスト法を理解する	実技試験に向けて各自練習
10	/	実技	肘内障の検査、テスト法を理解する	実技試験に向けて各自練習
11	/	実技	各検査法、テスト法を理解する	実技試験に向けて各自練習
12	/	実技	各検査法、テスト法を理解する	実技試験に向けて各自練習
13	/	実技	各検査法、テスト法を理解する	実技試験に向けて各自練習
14	/	実技	試験	
15	/	実技	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 柔道整復学理論編、実技編				

科目名 (英)	柔道整復実技Ⅱ		必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	菊池こずえ
	( )		授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース						曜日・時限	
教員の略歴	平成14年柔道整復師免許取得 平成17年草加西口接骨院勤務 平成17年柔道整復師専科教員修了証取得 平成18年大宮医療専門学校に常勤講師として勤務 平成21年草加西口接骨院・大宮医療専門学校退職、仙台医健専門学校(現仙台医健・スポーツ専門学校)に常勤講師として勤務							
授業の 学習内容	柔道整復認定実技審査(骨折、脱臼の整復固定)対策を行う							
到達目標	柔道整復学を活用、応用し模擬的に整復法や固定法などの実技を行うことによって、より臨床に近い知識や技術ができるようになる。							
評価方法と基準	90%を認定実技審査の評価方法を基に評価する。 10%を授業内の平常点を基に評価する。							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	実技	2年生の復習 肩関節脱臼	実技の復習を行う
2	／	実技	2年生の復習 鎖骨骨折・肩鎖関節脱臼	実技の復習を行う
3	／	実技	固定材料の作成	実技の復習を行う
4	／	実技	上腕骨骨折・総論 上腕骨外頸骨折 発生機序・症状・	実技の復習を行う
5	／	実技	上腕骨外頸骨折 整復・固定実技	実技の復習を行う
6	／	実技	上腕骨外頸骨折 整復・固定実技	実技の復習を行う
7	／	実技	肘関節脱臼 発生機序・症状・診察から整復までの流れ	実技の復習を行う
8	／	実技	肘関節脱臼整復・固定実技	実技の復習を行う
9	／	実技	肘関節脱臼整復・固定実技	実技の復習を行う
10	／	実技	肘内障発生機序・症状・診察から整復までの流れ	実技の復習を行う
11	／	実技	肘内障整復・固定実技	実技の復習を行う
12	／	実技	1学期の復習実技総復習	実技の復習を行う
13	／	実技	1学期の復習実技総復習	実技の復習を行う
14	／	試験	試験	
15	／	実技	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学理論編、実技編				



科目名 (英)	柔道整復実技Ⅱ ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	菊池こずえ
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	曜日・時限
教員の略歴	平成14年柔道整復師免許取得 平成17年草加西口接骨院勤務 平成17年柔道整復師専科教員修了証取得 平成18年大宮医療専門学校に常勤講師として勤務 平成21年草加西口接骨院・大宮医療専門学校退職、仙台医健専門学校(現仙台医健・スポーツ専門学校)に常勤講師として勤務						
授業の 学習内容	柔道整復認定実技審査(骨折、脱臼の整復固定)対策を行う						
到達目標	柔道整復学を活用、応用し模擬的に整復法や固定法などの実技を行うことによって、より臨床に近い知識や技術ができるようになる。						
評価方法と基準	90%を認定実技審査の評価方法を基に評価する。 10%を授業内の平常点を基に評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	実技	前腕骨骨折・総論 発生機序・症状・診察など	実技の復習を行う
2	／	実技	コーレス骨折 発生機序・症状・診察から整復までの流	実技の復習を行う
3	／	実技	コーレス骨折 発生機序・症状・診察から整復までの流	実技の復習を行う
4	／	実技	コーレス骨折 整復・固定実技	実技の復習を行う
5	／	実技	コーレス骨折 整復・固定実技	実技の復習を行う
6	／	実技	手・手指損傷の総論 発生機序・症状・診察など	実技の復習を行う
7	／	実技	手・手指損傷の総論 発生機序・症状・診察など	実技の復習を行う
8	／	実技	1・2学期の復習 骨折・脱臼の診察から整復・固定までを	実技の復習を行う
9	／	実技	1・2学期の復習 骨折・脱臼の診察から整復・固定までを	実技の復習を行う
10	／	実技	1・2学期の復習 骨折・脱臼の診察から整復・固定までを	実技の復習を行う
11	／	実技	1・2学期の復習 骨折・脱臼の診察から整復・固定までを	実技の復習を行う
12	／	実技	1・2学期の復習 骨折・脱臼の診察から整復・固定までを	実技の復習を行う
13	／	実技	1・2学期の復習 骨折・脱臼の診察から整復・固定までを	実技の復習を行う
14	／	試験	試験	
15	／	実技	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学理論編、実技編				

科目名 (英)	柔道整復実技Ⅲ ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	田村 博
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	1学期 曜日・時限
教員の略歴	2000.4～整形外科勤務 2001.10～接骨院勤務 2004.1～独立開業						
授業の 学習内容	柔道整復学理論編・軟部組織損傷(下肢・体幹・頭部顔面部)の講義						
到達目標	1.下肢・体幹・頭部顔面部の各損傷のメカニズムを理解する。 2.下肢・体幹・頭部顔面部の各損傷の発生原因・症状・施術方法を口述できる。 3.下肢・体幹・頭部顔面部の各損傷に対する徒手検査の意義を理解する。						
評価方法と基準	期末定期試験に授業態度を加味する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義	軟部組織損傷概説を理解する	解剖学・組織
2	／	講義	軟部組織損傷概説を理解する	解剖学・組織
3	／	講義	頭部・顔面部の軟部組織損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
4	／	講義	頭部軟部組織損傷・顎関節症を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
5	／	講義	頸部損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
6	／	講義	頸部損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
7	／	講義	胸背部の軟部組織損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
8	／	講義	腰部軟部組織損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
9	／	講義	腰部軟部組織損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
10	／	講義	腰部軟部組織損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
11	／	講義	鼠径部痛症候群・弾発股を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
12	／	講義	梨状筋症候群・ペルテス病を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
13	／	講義	大腿骨頭すべり症・単純性股関節炎 変形性股関節症を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
14	／	定期試験		
15	／	試験解説		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学・理論編改訂第6版 南江堂				



科目名 (英)	柔道整復実技Ⅲ ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	田村 博
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	2学期 曜日・時限
教員の略歴	2000.4～整形外科勤務 2001.10～接骨院勤務 2004.1～独立開業						
授業の 学習内容	柔道整復学理論編・軟部組織損傷(下肢)の講義						
到達目標	1.下肢の各損傷のメカニズムを理解する。 2.下肢の各損傷の発生原因・症状・施術方法を口述できる。 3.下肢の各損傷に対する徒手検査の意義を理解する。						
評価方法と基準	期末定期試験に授業態度を加味する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	大腿骨頭壊死症・ その他の股関節軟部組織損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
2	/	講義	大腿部打撲・大腿四頭筋肉ばなれを 理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
3	/	講義	ハムストリングス肉ばなれ・ 大腿部骨化性筋炎を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
4	/	講義	小児の膝・変形・離断性骨軟骨炎・ オスグッド・シュラッター病・ジャンパー膝を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
5	/	講義	半月板損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
6	/	講義	膝側副靭帯損傷・十字靭帯損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
7	/	講義	腸脛靭帯炎・膝蓋大腿関節障害を 理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
8	/	講義	膝周囲の関節包、滑液包の異常を 理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
9	/	講義	変形性膝関節症・コンパートメント症候群を理 解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
10	/	講義	アキレス腱炎、周囲炎・アキレス腱断裂を 理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
11	/	講義	腓骨筋腱脱臼・過労性脛部痛を 理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
12	/	講義	足関節、足部の捻挫を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
13	/	講義	扁平足障害・後足部、前足部の 有痛性疾患を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
14	/	定期試験		
15	/	試験解説		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
柔道整復学・理論編改訂第6版 南江堂				



科目名 (英)	柔道整復実技Ⅲ ( )		必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	田村 博
	学科・コース	柔道整復科・午前集中コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 ( 3 )	開講区分	3学期
教員の略歴	2000.4～整形外科勤務 2001.10～接骨院勤務 2004.1～独立開業							
授業の 学習内容	柔道整復学理論編・軟部組織損傷(上肢)の講義							
到達目標	1.上肢の各損傷のメカニズムを理解する。 2.上肢の各損傷の発生原因・症状・施術方法を口述できる。 3.上肢の各損傷に対する徒手検査の意義を理解する。							
評価方法と基準	期末定期試験に授業態度を加味する。							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	腱板断裂を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
2		講義	上腕二頭筋長頭腱損傷・ ベネット損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
3		講義	SLAP損傷・ 肩峰下インピンジメント損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
4		講義	リトルリーガー肩・動揺性肩関節 肩甲上神経絞扼障害・腋窩神経絞扼障害を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
5		講義	五十肩・石灰性腱炎・ 変形性肩/肩鎖関節症を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
6		講義	肘内側側副靭帯損傷・ 肘外側側副靭帯損傷・野球肘を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
7		講義	テニス肘・野球肘を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
8		講義	前腕コンパートメント症候群 肘関節後外側不安定症を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
9		講義	正中神経障害・橈骨神経麻痺・ 尺骨神経障害を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
10		講義	パンナー病・変形性肘関節症・ TFCC損傷を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
11		講義	指側副靭帯損傷・ ロッキングフィンガーを理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
12		講義	手根管症候群・尺骨神経管症候群・ キーンベック病を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
13		講義	その他の手関節・手指部の変形および損傷 を理解する	教科書の該当部分を読んで 不明単語は調べ、疑問点を挙げておくこと。
14		定期試験		
15		試験解説		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 柔道整復学・理論編改訂第6版 南江堂				



科目名 (英)	高齢者及び競技者の外傷予防技術 ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	菊池 こそえ
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	2学期
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース						
教員の略歴	平成14年柔道整復師免許取得 平成17年草加西口接骨院勤務 平成17年柔道整復師専科教員修了証取得 平成18年大宮医療専門学院に常勤講師として勤務 平成21年草加西口接骨院・大宮医療専門学院退職、仙台医健専門学校(現仙台医健・スポーツ&こども専門学校)に常勤講師として勤務						
授業の 学習内容	運動生理、競技別の外傷の理解・コンディショニング・予防について理解させる また、メディカルチェック・コンディショニングの方法を理解・実施できるよう実技指導を行う						
到達目標	運動の目的と問題点、競技別の外傷とその予防・リハビリについて理解し実施できるようにする						
評価方法と基準	筆記試験:100% 授業進度により小テストを適宜実施、筆記試験問題として出題する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義	講義の説明、運動生理の概要(影響・エネルギー代謝)	事前学習プリントを配布
2	／	講義	講義の説明、運動生理の概要(影響・エネルギー代謝)	事前学習プリントを配布
3	／	講義	運動生理の概要(骨・筋、呼吸・循環)	事前学習プリントを配布
4	／	講義	運動生理の概要(骨・筋、呼吸・循環)	事前学習プリントを配布
5	／	講義	運動生理の概要(ホルモン、特徴)	事前学習プリントを配布
6	／	講義	運動生理の概要(ホルモン、特徴)	事前学習プリントを配布
7	／	講義	外傷予防 概論	事前学習プリントを配布
8	／	講義	外傷予防 概論	事前学習プリントを配布
9	／	講義	メディカルチェック(弛緩・タイトネステスト・アライメント)実技	事前学習プリントを配布
10	／	講義	コンディショニングの方法(セルフケア・アイシング)	事前学習プリントを配布
11	／	講義	コンディショニングの方法(マッサージ・トレーニング)	事前学習プリントを配布
12	／	講義	スポーツテーピングの方法	事前学習プリントを配布
13	／	講義	スポーツテーピングの方法	事前学習プリントを配布
14	／	講義	筆記試験	
15	／	講義	試験解説	試験問題の復習
16	／			
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
競技者の外傷予防 全国柔道整復学校協会 小林直行				



科目名 (英)	高齢者及び競技者の外傷予防技術 ( )	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	菊池 こずえ
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	3学期
学科・コース	柔道整復科・午前集中コース						
教員の略歴	平成14年柔道整復師免許取得 平成17年草加西口接骨院勤務 平成17年柔道整復師専科教員修了証取得 平成18年大宮医療専門学院に常勤講師として勤務 平成21年草加西口接骨院・大宮医療専門学院退職、仙台医健専門学校(現仙台医健・スポーツ&こども専門学校)に常勤講師として勤務						
授業の 学習内容	運動生理、競技別の外傷の理解・コンディショニング・予防について理解させる また、メディカルチェック・コンディショニングの方法を理解・実施できるよう実技指導を行う						
到達目標	運動の目的と問題点、競技別の外傷とその予防・リハビリについて理解し実施できるようにする						
評価方法と基準	筆記試験：100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義	マッサージ・トレーニング実技(上肢・体幹・下肢)	事前学習プリントを配布
2	／	講義	マッサージ・トレーニング実技(体幹・下肢)	事前学習プリントを配布
3	／	講義	トレーニングの実際	事前学習プリントを配布
4	／	講義	トレーニングの実際	事前学習プリントを配布
5	／	講義	外傷予防(柔道)	事前学習プリントを配布
6	／	講義	外傷予防(水泳)	事前学習プリントを配布
7	／	講義	外傷予防(バスケットボール)	事前学習プリントを配布
8	／	講義	外傷予防(サッカー)	事前学習プリントを配布
9	／	講義	外傷予防(成長期)	事前学習プリントを配布
10	／	講義	高齢者の外傷予防の知識	事前学習プリントを配布
11	／	講義	高齢者の外傷予防訓練の手順	事前学習プリントを配布
12	／	講義	高齢者の外傷予防訓練の手順	事前学習プリントを配布
13	／	講義	高齢者の外傷予防訓練	事前学習プリントを配布
14	／	講義	筆記試験	
15	／	講義	試験解説	試験問題の復習
16	／			
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 競技者の外傷予防 全国柔道整復学校協会 小林直行 柔道整復師と機能訓練指導				

